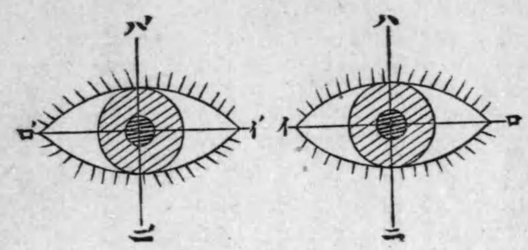
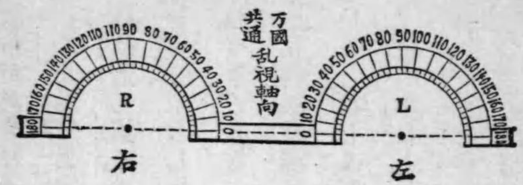
第十二圖



設けて分けると、若し此眼が「イロ」の方向に正視で「ハニ」の方向に遠視であれば此の眼は軸横の遠視性亂視であり、又若し「イロ」の方向に正視で「ハニ」の方向に近視であると、これは軸横の近視性亂視である。かう云つて了へば極めて簡單であるが亂視の人には調節機痙攣が比較的多く伴ふので、遠視性亂視の人が近視性亂視のやうに見ゆる例に度々遭遇するのである。

またこの亂視が近視なり遠視なりに合併するか、又は遠視性亂視と近視性亂視が併發する場合には、

第十三圖



極めて複雜なものが出來上つて來るのである。

亂視には軸が横又は縦のみに限らずして、どの方向にもあるのだから、萬國眼科學會で軸の度數を決定して第十三圖に示したやうにしたので、軸何度萬國式といへば何の方向に軸があるか分る樣に出來てゐる。

之を要するに亂視は生來眼球がいびつに出來て居る狀態をいふので、之を矯正するには適當なる圓柱鏡を以てするのである。

第五章　視格矯正による神經衰弱症の治癒と其實例

屈折異常が神經衰弱の有力なる原因となりたることは最早疑ふの餘地なきに至つた。而して此屈折異常を發見することが至極困難であることも前章に說いた所である。それ故若し眞正の屈折異常を發見し然る後之を正確に矯正し得たならば、眼の調節力を安靜ならしめ、眼精疲勞を癒し、續いて神經衰弱を消散せしむることは期して待つべきである。

もとより神經衰弱が悉く此の屈折異常なる唯一の原因によりて起されて居るものでないことは言ふ迄もないが、屈折異常が割合に多い事、且つ其れが患者自身にも氣附き難い事などを考へ合せて見れば、兎に角神經衰弱者は一應眼科醫を訪ねて屈折異常の有無を檢査して貰ふ必要があるので。然る後若し屈折異常が存在せしならば直ちに之を矯正したがよいと思ふ。言ふまでもなく前に述べたやうな諸多の神經衰弱療法を試みるも差支ない。然し乍ら其多くは對症候的のものであるから、根本的治療を施さゞる限りは徒勞に歸することを念頭に置かねばならぬのである。

實際余が取扱つた夥多の例證は、視格の矯正によりて他の諸症狀が忽然消退するのであつて、屈折異常が如何に重要な神經衰弱の原因をなして居るかを想像せしむるに餘る。左に從來取扱つた治驗例の一部分を擧げやうと思ふ。これ等の多くは嘗て他の雜誌等に載せたことのあるものである。

第一　視格矯正による諸多の腦症狀の治癒例

一、不適當なる眼鏡裝用による神經衰弱症

近視眼鏡二十番を裝用せる第八高等學校の生徒が、眼の具合が惡いので來院した。

そこで自分が診察すると近視性亂視であることが分つた。試みに「貴下は腦は良いのですか」と問ふと、其學生は「實は神經衰弱で十分の勉强が出來ず、二三時間も讀書を持續することは却々出來ず、おまけに恐怖心が强く、記憶力が弱く、思考力の如きは絶對に無く、感情は昂ぶるばかり、意志は弱くなるばかり、實に學生として此位辛いことはありません」といふ悲痛な訴へをした。此物語には自分も大に動かされて、特に精細の檢査を行ひ、凹圓柱眼鏡四十番を軸縱に裝用せしめた。すると二十日も經つと、前に訴へられた諸症が減退して、營養も逐日加はり神身俱に健康になり、長時間の勉强にも耐え得る樣になつた。隨つて成績も優良になり立派に卒業證書を握つて、今では東京帝國大學に精學して居られる。

二、頭痛及頭重

春といへば人心浮き立ち見るもの聞くものそれぞれ長閑なるの時自分のみは何故か頭が重い前額部から顱頂部時には後頭部に迄ひきしめらるゝ如に之に苦しめらること數年で實に醫治も其効なきとのことで來院せられたのは大阪の紳商某君（三十九歳）此人の訴へは天候の變化に依り頭重は變化して鈍痛を感じ遊び廻つてゐれば幾分和げらるゝも少し執務とか細字見考物をすればすぐ痛み出し時には刺すが如く或は打つが如く或は鑽むが如く時には疼痛と云ふよりも寧ろ壓へらるゝ樣な重い樣な感じを覺え常に步行するにも後頭部に響きて名狀すべからざる不快が他の神經症狀と共に數年來續いて治らぬとのこと勿論神經衰弱の診斷の下に各地の諸大家を歷訪せられ色々手當をされたが一進一退で思はしからず、特に此頭重頭痛には惱められたやうである所が潜在遠視に向つて一曲光力の眼鏡を裝用されて後更に音沙

汰なかりしが越えて四ヶ月上京の途立寄られて曰く今度は診察でなく御禮に來ましたとの口上。多年の苦しみも何日となく去り日々頭が輕く執務も出來る樣になりしも從來よくなつたと思ふと惡くなつた事が屢なりし故御挨拶を差控てをつたけれど今度と云ふ今度は大丈夫なりとて大喜びどうして自分の眼の異常あることを早く知らなかつたかと後悔せられ欣々として去られた。

健忘

「二年前近視で勝手に凹面鏡を掛けたら頭重頭痛不眠と共に記憶力が減じた樣だといふて校醫から眼鏡使用を中止せられた」といふ中國筋の二十五歳の小學校訓導殿檢査したら近視眼とは大違ひ反對の遠視性亂視と結果が表はれた先生茲に凸圓柱六十番の眼鏡を新調せられた四週間後の眼鏡の成績はと聞いたら先生今迄よく頭のぼんやりしてゐた爲か生徒の名を忘れたり質問に矛盾した答をしたり漢字をよく書き違へ殊に數字を忘れるには最も閉口したといふ。之が只一個の眼鏡を以てまだ日も淺いのに今迄の不眠が安眠に變じ業務に倦まず記憶力に增加を見たと。延いて四週日後通信して曰く、記憶障碍は精神病の外疲勞の際意識溷濁の際精神薄弱の狀態等に來るさうだが、自分も一時は精神病の前階級かしらとも恐れたが、今日では殆ど舊に倍し健忘等はないと云ふてよい位だとて、爾後益々眼鏡を大切に掛けてをるといふて丁寧の謝狀を寄せられた。

四　强迫觀念

强迫觀念なるものはよくあることで最も不快なる觀念である。少しく之を詳しく述べて後實例を擧げて見よう。之は學問上理屈を並べて見れば觀念聯合の障碍に外

ならぬ。卽之が一定の目的に叶へる觀念列の間に入り來つて考慮の進行を妨ぐるものを云ふのである。之は妄想と相似て非なるもので患者が病的だと云ふ事を自覺してゐる。卽ち然あるべからざる事をよく承知してゐ乍ら、然あるに違いないと矛盾した事を考へる明かに自分はつまらぬ事を考ふるもの哉と思ひつゝ、尙之につり込まれねば止まぬといふ厄介極まるもので。之には種々の書籍にも色々の種類が記載せられてゐる。例へば計算症、疑問症、洗濯症、（潔癖）汚塵恐怖、黴菌恐怖、天候恐怖、動物恐怖、臨場苦悶、閉所恐怖、鐵道恐怖等、就中稠人、刃物、疾病、獨居、蟲類等の恐怖が中々多い。

先づ他人を訪問して家に歸ると、所謂潔癖で戸外で衣服を脫し消毒せなければ危險視して必ずやらなければならぬ如き、又火事を常に心配するの餘り何度でも一定の場所の火を苦にして燒け殘りの灰の上にまで水を投ずるが如き、かくして或同一觀念が常に反覆して考慮中に入り來り、遂に事業の所決に躊躇し、不快不快で精神の煩悶を重ねて沈鬱狀態に陷るものであるかくの如く、一旦此觀念が浮び來れば嚴乎たる批判力を以て之を制禦し能はざるものであるが、之は知力の勝れたると否とにかゝはらず、誰でも來り得るもので反つて才能の高いものは之をして己が理解力で勝手に理屈を付けて一見眞理なるかの如く病狀を訴へるものがある。主に道德的宗敎的の事項で精神の統一を缺いてゐて、色々此觀念に襲れて發する言語の中によく前の如きものがある。

近藤某會社員（二十七年）氏二年前より神經衰弱殊に疾病恐怖ありて、常に、肺尖加答兒になりはせぬかどうもなりつゝある樣だ、もしなれば治らぬ、人に嫌がら

れ、終には死である等悲觀して、やれ胸を見てはどうも怪しい等、誰が何と云つても又醫師に此考慮を否決されても、又己が馬鹿らしいと思ひついても、此恐怖が止められぬ。到底稠人中にも出られぬ。人に接するも恐るゝ位で實に困るといふて來られた。此患者に就て余が潛伏遠視〇、七五Dを矯正してから大によくなつた。曾に神經衰弱の治療のみならず、一ヶ月半餘にして恐怖のなき樣になりたりとて喜び大に元氣づきて來られた。之に類似して蛇、友人、高所、…等の恐怖ある人も之が治つたといふ興味ある實例があるが、煩を避けて此處には記載を見合せておく。

五　夢中遊行症

之は睡眠中に意識なく朦朧狀態で人が運動するので、所謂ネボケた狀態である。高い所に登つたり又種々の行爲を爲す輕いものは、今云ふネボケた狀態で戸外に飛び出す位だが、重いものは此朦朧狀態で殺人等を犯すに至るもので、茲に京都某呉服店員(二十四歲)二三年前より時々上昇して知覺を失ひ、突飛な行爲を爲すとの事で來院せられた患者がある。勿論氏は朦朧狀態で何等意識なく戸外に飛出すので、或刺戟又刺戟なく一定時になつて興奮して正氣づくので、患者曰く、「出る時は誠に夢中で何が何だか薩張り世間も何も分らぬからよい樣なものだが始めて、正氣づいて後歸る時の極りの惡い事實に云ふべからざる次第なりと」。實にさもあるべき事である。之が潛伏遠視矯正の結果一ヶ月經過して來つて曰く、夢中遊行は一ヶ月三回位ありし樣なりしも眼鏡裝用後は多くなき樣なりと。其後月餘頭重上昇健忘の諸症は殆ど拭ふが如く去り、此忌むべき夢中遊行も大に回數を減じたるかの如く、身體の苦痛もなき樣になり御禮に來られた。

六　躁鬱狂

此中で殊に鬱狂狀態に近いもの即ち精神の抑制を多く示す體の患者が、下の樣な症狀を訴へて視格異常の檢定に來られた。之は三十二歳の市内陶器商で二ヶ月前より不眠時々死ぬ樣だと悲觀し、暫くすると又病氣が全快だと喜び等する。來院前日の夜等は十一時頃身體が倦くて死ぬと騷ぎ廻りし故、不取敢醫師の催眠藥で安眠さした次第なりと。此沈鬱狀態に加へて耳鳴り食慾不進頭朦頭痛の症狀を揃へ持つてゐる。以前は性分と思ふて居たが、此頃作爲力缺除し病覺が甚だ強い。尙所在識及ひ知覺は完全に保持してゐる。此患者を精細に檢査して潛伏遠視一、二五Dを發見し凸鏡を裝用せしめた、所が不思義なる哉四十日後來院して其容態は大に元氣づき、時々胸内苦悶狀態となるの外他の神經症狀の大部去ると同時に、之に伴ひ此鬱狂狀態明かに輕減し今では仕事に從事してもよいかとの質問を發するに至りし位、目下常に己が欲する魚釣に餘念なしと家族のもの〻驚喜してゐる。（之等の精神狀態も確かに窟折異常から原因した神經衰弱の輕快に伴ひ、追々其變質的精神症狀の快方に趣く適例として、著者も深く興味を以て研究の歩を進めて居る次第である。）

七　早發性痴呆

（本病の視格との關係に就ても著者尙研究中に屬すると雖も玆に面白い例がある）

患者二十五歳の學生四年前より神經衰弱の氣味ありとの事で、專門の病院の門を叩き上記の診斷を付せられた。又治療も受けてゐたが面白からず、下の如き病狀に苦しめられて、某高等商業も中途退學するの餘儀なきに至つた。本年余を訪れて其診斷を乞はれた。其訴ふる所は頭朦、不眠、多夢、疲勞感、沈鬱、入浴後暫時譫語、

讀書暫時にして朦朧となり不能、囈語の爲醒覺、在學中友人を恐怖し同席すると恰も咎めらるる如き感がしたと（某院にて自己病覺缺除せるものと云はれた。當時恐らく追跡忘想被害妄想の類ありしならむ）。尙現今も對話を拒む等種々の病狀を並べ、大に同情を求められた計らず、本患者も檢定の結果近視性亂視一、〇Dを發見したから不取敢凹圓柱眼鏡を裝用した。其後の經過は約半ヶ月にして不眠の苦痛消退し、よく安眠も出來樂になりしと。後尙一ヶ月諸症殆ど消退し、現今は多少人に接し挨拶が出來得る樣になり、譫語烈しかりしも今は全く去りて大に爽快を覺え、今迄他人より狂人待遇をせられたのは已むを得ぬ事であつたと氣がつくと、同時に、有難い事だと感謝してをられるのみか、嘗て初訴の際此はドーモ氣が變ですから何分宜敷と申添へられた父親は、子息一人拾つたと大悅びでをられる。

八　學業成績の向上

遠視眼が眼精疲勞を起し易い事は前に述べた次第であるから、適當の眼鏡を使用すれば其眼は正視の狀態となり、眼精疲勞を起さぬやうになる。此事は吾人讀書子。わけて勉强盛りの學生諸君にとりては、實に重大なる問題であつて、勉强能率の如何は將來一身の浮沈に關するわけであるから、入學試驗難の喧しき現今に於ては、實に偉大なる福音であると云はねばならない。

學生諸君にして本院の視格矯正を受け、眼精疲勞の消退と共に頭腦の明快、集注力の旺盛を來した結果、學業成績の頓に良好になつた例は尠くない。今迄嫌ひな數學が好きになり、不得手の英語が得意の學科になつたと云ふやうな愉快な話を屢〻耳にする。そして今迄何處も入學試驗に不合格の悲運に泣いた青年が、本療法を受

けてから、苦もなく其難關をパスしたと云ふ吉報に接する毎に、私は他人事でなく嬉しさに堪へぬのである。

明治四十三年本病院に勤務して、此遠視檢査法に多大の興味を有する海軍々醫少佐西川元吉君は大正八年佐世保海軍病院眼科主任奉職中、佐世保中學の學生に就て視格矯正を受けたものが、受けぬものよりどの位試驗點數が增加するかと云ふ研究を始められたが、同年末海軍部内に於ける流行性感冒の猖獗は、同君の興味ある業績を成就せしめなかつたので、實に遺憾に堪へぬ次第である。しかし檢査を受けた若干のものは、面白い成績を示して居るとの事で、中にも最も顯著なる一例を私の手許へ報告せられた。面倒な眼科學上の問題は拔きにして、其生徒の同少佐に差出した禮狀を轉載して生きた證據を御覽に入れる事とする。

昨年の十月末に佐世保海軍病院で近眼の治療をされると云ふ事であつた。又其治療を受けた者の話によると、頭が大變に輕くなり身體の工合もよくなつたと云ふことで、我校の生徒も大分病院に行つた。僕は近眼なんかどうして治るものかと又眼から藥を入れた位で頭が輕くなる事があるものかと思うたけれども、兎も角も治療を受けに出かけたのである。

海軍病院の眼科主任西川軍醫大尉はある藥を眼にさゝれた。二三日の間眼がボンヤリして困つたが、同時に頭が輕くなつたのは奇態だと思うた。そして眼鏡を選定して貰つた。

今迄夜晩くまで本を讀んで居ると眼が疲れて困つて居たが、その眼鏡を用ひて以來、勉强も大分長續きが出來た。その結果か二學期は殊更變つた勉强をした

とは思はなかつたが、頭が輕くなつて勉强が捗取つたのだらう。四年の一學期は十番であつたが、眼鏡を改めた二學期は九十三人中二番と云ふ好成績を得たのには驚いた。加之僕はよく食後に反芻があつて閉口して居たが、それも止んだし勉强中に頭が重くなつて困つて居たが、それも無くなつた。

三月の學年試驗にもやはり三番と云ふ良成績を得たのは、實に西川大尉の診察の御蔭だと感謝して居る。今になつて最初何の效果があるものかと輕蔑したのが恥しい次第である。こんな好成績を得たものは僕一人ではない。もし必要ならば僕の友人で大尉の治療を受けて喜んで居る數十人を擧げる事が出來る。

大正九年五月二日

佐世保中學校五年生　石橋信弘

九　ヒステリー（一）

嘗ては女性にのみ限られて所謂婦人病として數へられて居た本症も、近來は文化の進むに從ひ男性にも隨分多くあることが發見されて來た。兎に角奇態な症候を呈する病氣で、之は身體中殆どありとあらゆる病狀が來ないことがない。輕さは神經衰弱の初期位のものから、重きは癲癇と區別出來ぬ位な發作を表はすものもある。卽ち身的症候の外に精神障碍がある。之は要するに（一）短時日（數時間——數週）の意識障碍（二）朦朧狀態及び夢中遊行、（三）睡眠發作と（四）譫妄狀態等が各來り得るもので、此處に記載しやうとする人は二十六歳の某家の夫人で（一）に屬すべきもので毎月一日頃から何となく意識が朦朧となつて來て。人事が分り兼る樣になる。而して中旬の中頃になると突然フッと氣がつく。此樣な奇妙な症狀が毎度々々襲來

して約五ヶ年間内科の諸大家の診療を煩はし、ヤレ内服藥ヤレ轉地ヤレ溫泉と手を換へ品をかへて手當をしたが更に更に效がない。所へ聞傳へて當院に來られたのを診査した。結果凸四十番の眼鏡を潛伏遠視に對し裝用させて置いた。處が以來發作が頓に消散して回數も減じ、もしあつても數時間で戻る樣となり、又殆ど發作を見ぬ位に迄遂に消えた御蔭で、永年の苦腦から免れるを得たと大喜びである。

十　ヒステリー（二）

靜岡縣某町の令孃當年二十一歳にならるゝが此頃から遠見朦朧として氣分が鬱いで困ると云ふて、同地の醫師も手を盡して見たが、何の效もないとて態々其醫者がついて來院せられた。視力は指の數が漸く一間許り前で分るだけ而も視界は著しく減少して恰も竹筒を眼の前に置いて遠方を見る樣なものであつたのみか食慾は非常に振つてもイザ食膳に向ふと更に進まず時々は例の玉の樣なものが下腹から込み昇つて來るに苦まれたとの事である。此人は卽ち遠視の爲めに眼精疲勞を起し夫れを苦にした結果が、ヒステリー性黑内障となつたので、凸面眼鏡三十番を裝してからは視力を增加した許りか今迄の不快沈鬱が消え去りて診察は綿密にせねばならぬ事は申迄もない事であるが然らざる時は往々原因と結果とを相違させる事がある。

十一　感情興奮性

「癪に觸る」といふ事は日常吾々のよく遭遇すゝことのある感動である。人に對つて向ッ腹を立て一時性に前後夢中になるためにつまらぬ損失を招いて後悔する事も中々多い事柄である。

是も名古屋市内の某呉服店の店員某君（廿五歳）が怒りつぽくて氣短なために、商

買上には澤山の損害をして折角出來た商取引もペケとなつたり、長上には厭はれたり、有形無形に誤解を招いて信用の上にも出世の上にもどれ位の損をしたか解らなかつたのが、是も眼鏡裝用に依つて視格矯正が出來て、不思議と勘辨が善くなり、例令先方が失禮を働いてもナアに彼も僕と同等の人物じやないかと思ひ、客が無理難題を吹きかけても彼は常識が鈍い位に諦らめて、却つて氣の毒のやうな感じもして、立派に修養が出來たやうな快感を禁じ得ないやうになつた。百卷修身書を讀誦したよりは、遙に迅速に而して確實に效果があつたと、衷心から感謝の意を表されたのは、丁度當院で潛伏遠視四十番の適應を發見して之を處方して置いてから二年程經つた時であつた。此人が笑つて附加けかけて言ふには先年迄ドーシても疳癪玉が昂つてやりきれなかつた時には、眞逆主人持の身の人の物にも當られず、詮方なしに自分の私物を叩き毀しては、一時の煩悶を遣つて居たものであつたが、同じく玉とは云ひ乍ら其原因が眼球であつたとは妙でした。是では眼から火が出るといふことも全くないことでもありますまいと、手を拍つて笑談して居たのであつた。

十二　眩暈感覺

數日前一患者來り訪うて謝して曰く、余に旅行癖ありて而して眩暈癖あり、殘懷至極遂に十分なる人生の嗜好を滿足し得ぬかと獨り私かに慍つても詮方なく、實に齒嚙して口惜しがつて居りましたが、先般視格矯正を願つて以來漸次其癖が薄らぎ、今日にては車上仁丹清心丹の準備も不用となり、不快な線路を軋るボロ電車の音と動搖とに逢つても一向平氣となりました。汽車の中の人いきり長き隧道などを通過する時などの薄ボンヤリと煙草の臭い煙に包擁せられた燈光を眺める時などは、

直ちにグラグラと眩暈して不覺頭を拘えるを例として居たのが、旅行に際しケロリと忘れて却つて物足らぬやうな感じが致しました。人間の得手勝手話まづ斯樣なものと頻りに鼻蠢かして自分の手柄の樣な事を云ひながらサモ得意氣にニコ〳〵と謝辭を述べたのであつた。是亦神經衰弱症の一現症として眩暈を來し易き習癖の殊に乘車の場合に必發したのが、其本來の宿病と一緒に消退したものであつて、事理は容易に徹底して居るけれども兎も角も一新例の項目に擧げて置く價値はあると思ふ。

十三　不眠症

寢つかぬ、二時の時計が鳴る、三時を打つ、四時も聞く、終に曉告ぐる鷄の聲といつた風に、不眠程苦痛のものはない。神經衰弱すでに視格矯正に依りて治癒す、其續發症たるべき不眠症も亦之に依つて治癒さる可き筈であるけれども世に此不眠症に惱む人の多いのは事實である。茲に二十七歳の會社員で十年前より此病に惱み東京の大學病院初め諸大家のソコ〳〵に殘る隈なく診療を受けたれども、一向に效驗なく困り拔いて不愉快に其日々々を送つてをられた中に、當院が眼科の見地からして神經衰弱に獨特の技能を有するを聞きつけ、早速來院したといふことであつた。ソコで十分懇切に時間を惜まず檢眼した結果、遠視性亂視であることが解つて、凸圓柱眼鏡三十番軸横に裝用して、六週間後に來院を求めておいた。約束通り來訪した同君は喜色滿面十年の苦痛六週日にして拭ひ去られたと夥た度謝意を述べられたのであつた。心なしかや同君の容色今日は晴れやかに、額には若々しき血色が漲つて、葡萄のやうな双眼に生々した氣分が溢れて居た。

十四　寢言

十數年前の幼時右眼を傷つけて失明した其痕跡に、白い雲がかゝつて見場が惡いからとて來院した名古屋市の或中學の生徒があつた。依つて其患眼に點墨術を施す傍、其健い方の左眼の視力を檢査すると計らず遠視性亂視であることを發見した。そこで凸圓柱四十番軸横といふ眼鏡を掛けさせた。すると其後同君が來院して笑ひながら「寢言といふものは眼からいふものですか」といふ奇問を發せられた。何故に此樣な奇問を發せられたかと尋ねると「實は僕は家人から笑はれる程、大の寢言家であつたのが、近頃急に寢言をいはなくなつたので、今度は家人から、貴方は今迄眼で寢言をいふて居たのでせうといはれました」といふ答へであつた。是も神經衰弱の爲めに深い睡眠をすることが出來ないので、夢を見たり寢言をいつたりして居たものが、原病が癒つた爲に其結果たる色々の發作が消滅した迄のことで、決して怪しむに足りないのである。

十五　偏頭痛

名古屋市醫師NM君幼年の頃から一寸勉强すると居睡る癖があつて夜になるとすぐ船を漕ぎ出す、試驗の時には洋燈ばかり徹夜して、御當人は白河夜舟の有樣、いつも眼を眞赤にして結膜炎と、偏頭痛とに苦惱して居られた。或る日のことたま〳〵遊びに來られた序に眼をよく檢査すると、遠見は人よりも見えず、横の線はよく見えるが竪の線は見苦くい。時計を見ると三時と九時の數字は明瞭で、十二時と六時はボンヤリする、是は近視性亂視であると云ふので、凹圓柱眼鏡二十番軸向鉛直に裝すると、世間は生れ變つた樣に判然と見える。同氏は小躍りして喜んで眼鏡を用ひてからは如何に讀書しても最早結膜炎や偏頭痛は起らない。氏は醫學を學んで自

己の眼病を知らず燈臺下暗しの譬へも思ひ合はされて、今更過去の學業に人百倍苦しんだのを口惜がつた。コーと知つたら試驗に優等を取るのは朝飯前であつたのに、と愚痴をこぼして居たけれども其後氏の宿痾癒えてよりは元來の勉强家は彌々其の精華を發揮して、間斷なき勉强と不屈の熱心は、忽ち氏の學術を他に超越せしめ、今や屈指の名醫として名聲籍甚である。

十六　癲癇樣發作（閃輝暗點症）

縣立某中學校の五年生SH君中々の勉强家であるのに、學校の成績が思はしくない。同君は十歳の頃から月に一回づゝ突然左の偏頭痛が起り眼前に電光の樣に閃々した物が見え、而して嘔吐をするのが常である。或る內科專門の醫師が癲癇と云ふ診斷を下して、其手當を受けて居たが、治るどころか段々劇くなつて近來は隔日位にそれが起る。其處で到底自分は勉强する事が出來ないと悲觀して居たが、念の爲腦神經專門の某醫師に診察を受けた。處が或は眼の惡い爲めかも知れないからと云うて當院に紹介せられた。例に依て視力檢査をすると遠見は充分であるが、矢張り遠視を持つて居るから凸面レンズの三十番を裝用すると一層明瞭に見る事が出來る。其處で此眼鏡を裝用せしめた所が多年苦惱した癲癇樣發作が殆ど全治し、一昨々年の八月から一昨年の十月迄一年四ヶ月の間に極輕いのが僅に三度あつたのみで、頭腦は明快になる勉强は出來ると云ふので、當人は元より父母始め一族親友等の喜悅は譬ふるに言葉なき有樣であつた。

十七　癲癇

醫學が進步したとは云はれるけれどもまだ〳〵譯の判らぬ疾病が澤山ある。癲癇

の如き其中へ指を屈することが出來る。しかも斯れが出もの腫物と同樣に處嫌はず僅かの精神感動から發作して極めて不體裁を衆人の面前に曝すのであるし、其治療法が普からぬ難治の病症であるからである。米國では遠視や亂視の眼鏡を裝用させて癲癇を治癒さしたと力んでをるけれど、之れ所謂米國流なりとて獨逸流派の漲れる今日一顧の價値もないものにされて居る。處が此頃前後して三名の二十歳内外の青年の治癒した症例を實驗したから序に此に追加しやうと思ふ。其一人は遠視性亂視一人は潛伏遠視一人は近視の過度矯正結果であつた。三人が三人共に學生で如才なく夫々内科專門家の治療を受けたけれども、效果なき爲めに放擲して高等遊民の芽ばえなりと自信して居たのである。就中一大學生の如きは一年志願兵も此發作の爲に免ぜられたとの事であつた。猶他の一人の如きは來院の途中船内にて數回發作の襲來した爲に附添人を苦しめたとの事で、歸途も同樣であらうと當人よりも寧ろ附添人が氣を揉んで、色々と念を押して尋ねられ、閉口した事で有つた。處が今度は意外千萬全然無事に歸航が出來た計りか、眼鏡裝用以來精神狀態が恢復して非常に爽快になつたとて、謝狀の末に豫備の眼鏡を作り置きたいと申越された。

第二　視格矯正による眼症狀の治癒例

一　内斜視

斜視の中でも内斜視と云ふて眼球が内方へ向くのは誠に見苦しいもので、一人の可愛い娘の眼の黑玉が内方に偏つて、可惜十六の娘盛りを何うしたものかと心配して來院したのは名古屋附近の農民某氏である。貧乏ではあるが十五圓か二十圓迄

は工面するから、何うか娘の眼を治して呉れと云ふ質朴な話し振で、誠に御氣の毒な次第であつた。そこで視力を精査すると高度の遠視で凸面眼鏡七番を用ひると忽ち内斜視は消失したので、附添つて來た父親は三拜九拜して喜んだ。此娘は肝癪持で怒り易い性質であつたが是も斜視と共に治つたとの事、斯樣な遠視の爲に起つた内斜視は普通の手術を施したら大變な失敗になる。

二　流涙症

今年三十歳になる名古屋市の或木綿商人が來られ、「どうも私は眼に風が當ると涙が流れ出で、拭くに遑のない程です。算盤彈くにも帳面捻くるにも實に困り切ります。唯さへ不景氣で泣き度いばかりだのに、これでは全くやり切れません」といふ訴へであつた。診察して見ると一向眼には大した變りはないが、視格を測ると遠視性亂視が歴々と出現したので、其適當の眼鏡を裝用せしめた處が、二週間も經つと其人の涙は全く止まり、沈鬱の氣分も拭ふたやうに癒えた。是は分泌過多といつて消化器でいふならば胃の鹽酸過多症とか、唾液の分泌過多に因つて起る流涎症と同じ系統のもので、亂視のあつた爲めに腦症を惹起し、その影響は分泌過多となつて現はれたのである。

三　急性結膜炎

名古屋屈指の某資産家の總支配人ＲＯ氏、眼が赤くなり、涙や脂が多く出て何だか異物が入つた如く、ゴセ〳〵して困ると云うて來院せられた。診察すると急性結膜炎に違ひない。處が視力を調べると甚だしい潜伏遠視が出て來たから、「アナタは日頃新聞を讀んだり手紙を書いたりなさると頭がクシヤ〳〵しませんか」と尋ねる

と、「實は五六年前から健忘、多夢、嗜眠、肩凝、上昇等があり、神經衰弱と云ふて或る內科專門醫の、治療を受けてどれだけ藥を飲んだか知れないが、遊んで居れば全快するし、仕事をすれば忽ち神經衰弱と云ふ譯でとんと根氣がない。五分も書見すると頭がズキン〳〵として如何にも堪へられない」といふ返事であつた。そこで凸面眼鏡の二十四番を裝用すると遠見がよくなる許りか、近所の作業卽ち讀書計算書字等の面倒で手が出せなかつた仕事が何の疲勞も不快もなく、何時間でもやれると云ふ有樣になつた。是れは矢張り遠視の爲めに眼を無理に使つた結果腦が疲勞れて、甚だしい神經衰弱を起したのである。同氏は急性結膜炎を治療して貰ひに來たのだが、多年苦悶した神經衰弱迄治して頂いて、こんな嬉しい事は無いと喜んで居られる。

四　眼精疲勞症

近頃讀書筆記等を三十分間も續けると頭が重くなり、兩眼に疲勞を覺え、眼球の奥の方でだるいやうな疼痛があり、次で文字が朦朧として來る。力を入れて見詰めてゐると、明瞭に見えて來るが、直に疲勞し、次に頭が顳顬から顱頂後頭部に亙りて、ヅキ〳〵と痛んで來る。讀書を止めて窓外でも見て居ると、忘れたやうに治つてしまふが、讀書を始めると十分乃至十五分も經つと、再び前のやうになつて來る。眼が惡くなつたのか、頭が惡くなつたのか、此のやうな風では勉强はとても出來さうにない。

以上は當年廿五歲になる某工科大學生が洩らした嘆聲である。元來此の人は自分の眼は良いといつて少からず自慢してゐたので、今迄一度も眼病に罹つた事がない。

高等學校時代、試驗前には、徹夜して勉强したこともあつたが何んともなかつた。身體も至つて强壯、柔道は二段、劍道は目錄の腕前、强壯の處へ武術で鍛へて、頑丈の體格である。

その人が斯うした嘆聲を洩らすに至つたのである。で、眼を檢査すると潛伏遠視が一・Dあるが、眼鏡を裝用して見ると、最も弱度の遠視眼鏡でも視力が減少する。之れは獨り此の方に限るのではない。多くの場合は潛伏遠視には眼鏡が應じ惡いのであるから、矯正法を施す事を勸告し、翌日早朝から反覆矯正を試みたが、何うしても眼鏡に應じない。止むを得ず、其翌日引續いて矯正を施し遠視四十度の眼鏡を裝用したら、漸く視力を害さぬ樣になつた。其處で凸十六度を裝し、讀書を試むるに一時間經つても眼も頭も何んともない。卽ち上半凸四十度、下半凸十六度の「フランクリン」式眼鏡を處方し、一ヶ月後に診察すると、裝鏡以來非常に具合よく、眼も頭も何んともない。以前の樣に勉强が出來る樣になつた。裝鏡した當時は眼鏡が苦になり、遠方を見るに「カスンデ」困つたが、近頃は學校で黑板を見るに少しも差支ない樣になり、只夕方人の顏が幾分見惡く、街燈を見ると御光がさして見えるのみたが、愉快に勉强が出來るので、此の位の事は何でもないと大に喜んで居られる。

眼精疲勞が神經衰弱の原因となることは旣に古來から著明の事であるが、世の中は色々なもので、人事を盡すことなしに、神經衰弱の爲に眼精疲勞を起すものが多いから、斯くの如き症例があつても眼科の領分では致方がないと力むで御座る學者もある。

五　中心暗點症

また今年三十八歳になる郵便局員の某君が、右眼の前に黑い斑點が見えて、何か見やうとすると、肝腎の見やうとする所は見えないで、却つて其周圍の所はよく見える。此前も時々此病氣で苦しめられたが、一ヶ月ばかり前非常に事務が多忙であつた爲めに、また〳〵發病して、今度はどうしても良くならないといつて來診せられた。これは中心暗點症といつて、やはり一の眼病である。そして其人の掛けて居た眼鏡を見ると近視の十六番である。そこで自分が其患者を調べて見ると、眼底には何の變狀も認めないのみならず、近視の方も、もつと弱い度の二十四番で澤山である。序手に其患者の平生を聞き糺して見ると、立派な神經衰弱症に罹つて居ることを發見した。そこで凹面二十四番の眼鏡を裝用させたところが、十日二十日と經つ內に漸次神經衰弱が取り去られて、例のポツンと見えた黑い點も何處かへ去つて了つた。是は畢竟過度に強い近視の眼鏡を裝用したが爲に其過度だけが丁度遠視となつて作用するから、遠視の人が眼鏡無しに働いて惹き起す障害と同樣の難儀を來したのである。よく見えるに委せて強い凹面眼鏡を裝用することは隨分危險なことである。

六　單純結膜炎

毎月晦日になると白玉が赤くなり、眼脂が出て困ると云ふて來られたのは市內某町の竹商MS氏(三十四歳)である。此人は一寸見ると視力は普通の樣だが、凹面レンズの四十番をかけると尙よく見える樣になり、イクラ近くを視ても晦日の忙しい時に仕事しても、もう結膜炎を起さないのみか、頭が重いのと肩の凝りの持病がな

くなつた。是は原因たる遠視が治つたから色々の苦痛が消退したのである。此の樣な病人は本邦に極めて多いけれども、遠視や遠視性亂視を發見することが面倒だから見逃され易いのである。

七　トラホームと思はしめた遠視

某高等學校第二部の生徒某君(二十一歳)數年來トラホームに犯されて居て、原籍が東京であるから彼の地で諸家の治療を受けたけれど思はしくない。昨年の暑中休暇には全力を盡して治療に從事した結果全快したとの事で、喜んで登校した處が、圖畫を書くので眼を使ひ、又々惡くなつたとのことである。單に結膜に炎症がある許りで他に變りが無い。漸くに檢査を進め行くと可なりの遠視であるから、凸面レンズの十六番を懸けると遠近共に明瞭となり長時間七號活字を讀んでも苦惱を感ぜぬ樣になつた。爾來眼鏡裝用と共に昔日の苦惱は一掃して了つた。同君は昔はトラホームが有つたのであるが、其治癒したにも拘はらず、尙ほトラホーム〳〵と一意に苦惱した、何ぞ知らんそれは全く遠視の惡戲であつたのである。

八　眼瞼下垂症

眼尻の上がつてをる方では歐洲人に優つてをるけれども、全體に日本人は眼瞼が垂れてをる。其垂れてをる眼瞼が片方丈け餘計に垂れて居たとしたならば全く見態のよいものでない事は云ふ迄もない。中國某聯隊の中尉殿數年前より何時となく此症に罹られて、醫師の診察の結果手術をとの事であつたが、丁度知人からの勸誘で腦が惡いから序にとて來られた。視格矯正の結果凸圓柱レンズ四十番横軸を裝して置いた處が、過ぎて四週日欣然として來院萬謝して曰く、「記憶力や判斷力の快復

は實に妙に快復した。此分ならば陸軍大學の試驗に應ずる事が出來樣と思ふのみならず、御蔭にも多年念頭に懸けて居た右上眼瞼の下垂症が消退して左右均等となつた。此れでこそ軍人の威嚴を保つ事が出來る」と大滿足を表せられた。

九　眼球震盪症

忙しい時に眼が廻る樣なと云ふ形容詞を用ゆるけれど、餘り忙しくもない時に實際に眼が廻つたら定めし迷惑至極の事で、患者に執つては周圍の物體が運動する樣に感ずるから、假令鏡に向つても終世自己の存在を知る事が出來ぬ。厄介至極の難治の病症を術語で以て眼球震盪症と名付けるのである。某實業家の獨り息子二十一歳の青年が此病氣の爲に徵兵の下檢査に注意を受けたいからとて、急に思立つて來院せられた。爾らばと例の矯正法の結果凸四十番の適應するを認めて之を裝用さした處が、忽然と此現象が消え去つた。餘り不思議に堪へぬから醫員連中と打寄つて眼鏡を懸けたり除つたりして能々觀察を遂げたけれど、此眼球の水平震盪症は凸面眼鏡さへ裝用して居る際には、如何に物體を注視せしめても起らぬことを確かめ、可なり珍らしい實驗である。彼の青年は此眼鏡裝用によつて永年の苦痛の種である頭重眩暈から免れることが出來たとの事で大悅びである。

十　夜盲症

郡部某小學校に教鞭を執らるゝ某君今年二十四歳にならるゝが、十年前から遠視朦朧として霞を隔てゝ物を見るが如く夫れが段々甚だしくなつた。終りには夜盲になられた同君は平素近視眼鏡の二十番を使用して居られたのである。能く〳〵精査すると、驚くべし、凸面眼鏡二十番を裝用し遠近共明瞭となり、生涯の恨事たる夜

盲の忽然拭ふが如く癒えた。同君は嬉しさの餘り男泣きに泣き、只管叩頭萬謝して、何時の世にか此喜びを忘れ樣かと又も泣かれたのであつた。是れは遠視が調節機痙攣のため假性近視となり、眼の底に在る物を視る網膜が疲勞した結果夜盲を起したのである。此の例は予が始めて逢遇したのであつて極めて珍奇なものである。

十一　色盲

近時陸海軍は勿論のこと、高等の諸種學校へ入學せんとして居る少壯有爲の中學卒業生諸君の中で、其競爭に打勝つて學術試驗の安宅の關を越さうとするに先立つて身體檢査の場合に、是亦堅實强健の丈夫が無殘や單に「色盲」の爲めに除外せられて、落伍者となり憤懣の餘り意氣沮喪して妙な境遇に陷るやうな人がありはすまいか。更に又一面から之を觀て「色盲」なる病氣が不治の疾病であると稱へられて居る以上、人は只其不幸に泣くより仕方もあるまいけれども、よく熟慮してみると若し色盲も官能的疾病の一としてみれば、强ち絕對に治らぬといふ譯もあるまいかと思つて居る。折も折市内の某青年斯歎に沈んで居る人が視格矯正の爲めに來院せられて、之を行つた後不測其色盲が薄らいで往き、終には全治するに至つたのを實驗した。不思議とも何とも其當時は只妙なる哉と暫しは却つて呆然たるものがあつた。現に其患者を予の許に紹介せられた市内西區の某醫師は途上に會せし折「元來色盲なるものは治すべき病なるか」との質問を試みて感歎して居られたことであつた。

十二　緣内障發作

三十四歳の某官吏が事務を執ると直に眼は朦朧とする。頭痛が起る。虹霓のやうな五色の輪が見える。時によると胸がムカ〳〵し嘔吐を始める事がある。遠見は普

通であるが、横の物より縱の物がよく見える。其處で精密に調査すると遠視性亂視があると云ふので、凸圓柱眼鏡三十番軸向縱に裝用すると、遠近共に明瞭、どんな細かい仕事でも長時間平氣で何の苦もなくやり遂げる事が出來る樣になつた。

十三　假性近視（調節機痙攣症）

小學時代には優等生であつたものが、中學の三年頃から黑板の字が判然と見え惡くなると同時に、成績が漸次下落する。親の身そらの心配に堪へず。精確に檢査をして吳れと同伴せられたのは中學生の某君（十六歲）。視力檢査を行ふと辛うじて十分の一の視力よりないが、凹面眼鏡の十六番を裝用すると完全以上に一、二の視力が出るから、當人は非常によく見える樣になつたと大悅びである。爾し精細の方法で檢査を進めて行くとドーモ近視とは思はれぬ。矯正法を反覆して居る中に凹面眼鏡なしに完全に追々視力が增加して來たのみか、却て凸面眼鏡四十番が應じる樣になつたから、其眼鏡の裝用を强請せしめて置いた。時々ドーも遠方が霞むと云ふ訴へがあつたけれども、其處が辛抱だと諭して置いた事であつたが、時日の經過と共に眼鏡は邪魔にならぬ樣になつて、三ヶ月後には全然眼鏡を懸けてをるのを知らずに湯に入る樣な事もあるとの事である。爾來成績が頓に向上して來たとて大悅びでをられる。即ち此人は遠視眼者であつたのが、適當の眼鏡を用ひずに眼を無理に使つたから、調節機の痙攣を起して丁度近視と同樣の狀態を呈したのであつた。右樣の例は實に澤山ある。只之を精確に檢査するのが頗る面倒で、時として往々四週日餘の日子を要する事がある。專門の吾々でさへ如斯次第であるに、素人任せに凹面眼鏡を見えるに任せて輕卒に裝用するのは危險千萬の次第と云はねばならぬ。予

は此場合眼鏡舗に於ける凹面眼鏡取締規則の發布を希望するものである。

十四　內直筋作用不全症

眼球の運動を司る筋肉の力が各平均せない爲、近い所を見るに當り、輻輳力が充分でなく書見等も始め何等の苦痛もなく字も明瞭に見えるけれども、暫時にして各字が混亂し來りチリ〳〵して眼邊に痛みを生じ、到底長く近業をとる事が出來ぬといふ訴へ、卽ち筋性眼精疲勞の症狀を訴へて來られた某會社の技師某君に、嘗てトラホームの根治手術を施して後非常に輕快したと喜んでゐられた處、翌年同時期に亦前症を繰返すとて來院せられた。結膜には何の異常も認めず視力も完全ではあるが內直筋作用不全が四度あるから、プリスマ眼鏡の裝用を命じて置いた。然し是亦其後一時的輕快で其翌年亦來院して前症を訴へられたには閉口した。其時丁度潛伏遠視發見法案出の際であつたから、早速先の眼鏡を廢し視格矯正の結果あらはれたる凸面眼鏡六十番に換させて置いた所、爾來驚くべし、眼精疲勞の症狀は云はずもがな、頭重肩凝等の一般神經症狀が全く消失して、樂に事務に從事せられる樣にさへなつた。尙本人過日渡米に際し檢診の爲來られた時には、筋の作用不全は全く消散して居た。米國では此筋性疲勞をやかましく申すけれども、嘗に結果に許り重きを置いて原因を窮めぬと、之亦色々の失態を招くものである。

十五　羞明

數日前汽車中にて何か異物が入つて早速醫治により治癒した筈であるけれども、夫以來何だか晴天の日往來へ出るとまぶしくて仕樣がない。近來は瓦斯や電氣の點燈せる明るい部屋へ出ると、羞明に堪えず眼瞼を開く事が出來ぬ位で、醫師の勸告

で暗色の眼鏡を裝用してゐるもの、若やの事がありはせぬかとて診を乞はれた某社の書記某氏(三十六年)に、夫々官能檢査を行ふも何の異常もないが、近視性亂視の存在を認めたから、念の爲時計を見さした所、三時と九時が明瞭だとの返事、早速放線で檢査した所矢張り水平線は沿直線に比し濃く見ゆると云はれるから、頭を九十度横に傾けさして今度は如何と問うたら、前に反するとの答依つて放線に近づけ見さした所、どの線も皆一樣だから某先生自分の眼の間違を放線に引かぶせた事を成程と合點された譯で、尙精問する中色々の神經症狀をも訴へられたから、凸圓柱六十番横軸の裝用を命じて置いた。其後約三週日來院されて曰く、第一に視力が增し尙頭痛と心悸亢進が追々消退したら、何時とはなく眼の羞明ありしものが去つて、今では眼鏡裝用により何等苦痛を感じないとの事で大悅びでゐられた。

十六　飛蚊症

此處數日來時々眼前に水玉の樣な白い光つたものが、時に幾つとなく飛ぶかと思ふと消去り、消去つたかと思ふと又飛び、うるさくて致方がないから某醫に早速診を乞ふた處、「そこひ」の始まりだから注意せよとの事で、治療を受けて居るが一向に效驗なく、此數日來甚だしく何だか自分で失明の機が迫り來る樣な氣がしてならぬから、精細に診察を願ひたいといふて、郡部の某會社の事務員(三十歲)某氏が飛込んで來られた。一診するに視神經乳頭の充血の他視界にも何の異常もなく視力も完全であるけれども、檢査の結果潛在遠視四十度を發見したから、之で今迄異常なく事務がとれたか否や、腦の方が惡いと氣付かぬかと問ひつめた所、仰の通り神經症狀あるとの事で、早速凸面鏡裝用の勵行を勸告して置いた。越えて二ケ月懇

篤なる謝狀を寄せられ「何時となく飛蚊の消失して再襲せぬ事の有難さに、加ふるに從來社務に際し二算をせねば安心が出來なかつたものが、此頃は一算で安心が出來る樣になり、事務の統一が出來る樣になつたので實に嬉しいと報ぜられた。

第三、視格矯正による耳鼻咽喉障害の治癒例

一、耳

岐阜縣大垣町に住む四十二歳の男子が急性結膜炎で來院した。診察して見ると、眼の病氣は至つて輕少であるが、どうも容貌應對に神經衰弱患者の氣味が表はれてゐるので尋ねて見た。すると患者は驚いたといふやうな調子で、「洵にお尋ねの通りです、私は高度の神經衰弱症に罹つて、もう長年色々なお醫者樣に見て頂きさしたが、一向に癒りません。そして耳鳴が激しく、夜も碌々安眠が出來ないやうな譯で困り切ります」といふ答へであつた。そこで暗室で精査して見ると、遠視の三十番が適當であることを發見した。猶其上にも潛伏遠視を發掘しやうと努めたけれども、どうも出て來ないので、止むを得ず凸面眼鏡六十番といふのを裝用させて置いた。すると十日程經て其患者が「あの眼鏡を掛けると共に年來の耳鳴は忘れるやうに無くなりましたので、一時はどうも信用が出來ず、頭を振つて見たり、耳朶をつめつて見たりしましたが、全く夢でも何でもなく全快したといふのが分つたので小躍りして喜びました」といふ禮を述べに來られた。

二、難聽

某商店の主人公が難聽の爲に專門家の治療を續けて居た處が、頓と效果がない許

りか、此數日は却て劇症に陷つて、餘程大聲で話さねば通話が叶はぬ樣になり、時としては寧ろ筆談の方が優る位になつて、神經症狀は愈々增進する許りである。爲に遂に主治醫の紹介で來られた。此人は以前外國で、相應の眼科專門醫に診査して貰つて、凹圓柱レンズ縱軸を裝用して居られたが、精査の結果凸圓柱レンズ橫軸を處方して置いたのである。五週間の後に來院しての談に、數年來船來仕込の神經衰弱症狀の退散するは勿論の事、其副產物として豐と云ふ程ではなけれど、年來苦痛にして居た難聽が平癒した爲めに、非常の悅びに堪えぬとの事であつた。

三、鼻閉

和歌山市の綿商二十二歲の男子、長らくの間の鼻つまり、加之お定まりの神經症狀、鼻閉だに治せば、腦から來てる神經症狀また忽ちに平癒すべしと、尤も千萬な心願を起し、某耳鼻專門醫に手術を受けること前後二回、痛さを堪へた甲斐もなく、腦神經の症狀は愚か、鼻閉も全くは治癒せず、何事も因緣と諦めては見るものゝ、若い身空の將來に富むを思へば、今一度何とかして本復せばやと、とつおひつ本院に辿り着いた。診ると、果して潛伏遠視で、凸面眼鏡四十番を選定處方した處、裸眼視力に比べて却つて視力を增した。試みに此眼鏡を裝用して讀書を續けさせて見たところ、患者突然手を打つて叫んで曰く、善哉從來このやうな程度に鼻の樂になりたる事なし、願はくば價を問はず何程にてもよし此眼鏡を我に讓與せよと手に握りて容易に離さず、さらば此物と同樣の眼鏡を作られたらば宜しかるべし、今貴下裝用の分は當院備付の檢眼用のものなればと、漸く安心させて之を收めたのである。患者が苦みより脫せんとする熱心と、偶然合理の診斷の下に會心の器具を得、之を

所有せんとする欣喜の情との合併した一つの動機はコンなものであらうかと、醫員一同顔見合せて感じ入つたのであつた。

四、鼻及咽喉症狀

愛知縣○○郡巡敎師野○藤○○(三十六年)といふ人、十八年來時々眼疾に罹り、幼年時代から細かい作業が思ふやうに出來ず、時たま之を續けると上衝して衄血する迄になるといふので受診に來られた眼科病としては左右の結膜炎と、左の角膜薄翳とを認める許りで、唯々腦の症狀を切りに訴へられるので、試みに耳鼻科の診を乞はしめた處、高度の肥厚性鼻炎、出血性鼻中隔鼻茸、乾性中耳炎及び慢性咽頭炎であると云ふ法性寺宜しくの丁寧なる病症であつた。成程是れでは神經症狀の起るのも無理はない。鼻だ耳だ咽頭だと八宗九宗の故障があつては、腦髓に影響を及ぼすのは理の正に明白なところである。折角御加療なさるべしと話して精出して治療に從事せられたが、一向原末ともに効目がない。ソレでは今一應眼の方を精診の上と矯正法を施した處、凸面眼鏡の度が六十番と出て來たから早速其の眼鏡を裝用させて、之を强制就業させた。ソーすると妙なる哉だ。單に眼の症狀が消失した許りでなく、從來の痼疾たる神經症狀は勿論、耳や鼻迄が大に緩解して樂になつたと、且つ呆れ且つ喜んで居られたのであつた。是等は實に潛伏遠視の發見と其視格矯正に依て著効を奏した一例であつて、吾人と雖も意外の邊に迄其權威を及ぼし得るのに驚かされて居るのである。

第四、視格矯正による末梢神經障害の治癒例

一、神經痛

軒燈の光り淡く神棚の燈火煌めく長火鉢の前、窶れし花の一輪、きりきりと疼む顳顬を、煙管の先きにグッと押へて、やゝ青褪めた顔に鬢の毛一筋二筋梳き上げんも疎懶しと、折節眼に故障のあるのを幸ひに本院に治を求めた名古屋市内某料理亭の女將があつた。之は七年前からの上眼窩神經痛で、晴々と機敏に立働くべき家業柄の、是ではならぬと醫師よ藥よ御祈禱よとあせつた甲斐もなかつたのであるが、精診の結果遠視の四十番といふ眼鏡を裝用がつた所がガラリッと癒つて茲に二ケ月以來曾て一回も頭痛を覺えません。癪にうれしき男の力といふが、頭痛にうれしき眼鏡の力で御座いますと、生き〳〵した顔色愛嬌よくいつもいそいそして喜んで居るのである。一口に上眼窩神經痛といへばソレ丈けであるが、此疼の起る時は一二時間位眼の上の處から額にかけ、それから頭の方へ針でも刺すやうにチクリ〳〵と痛んで、涙がポロ〳〵と流れて、眼が開けなくなる、隨分難儀な病氣である。ソレが一朝にして治つたのだもの嬉しいのも尤もである。

二、齒痛

僕は眼の性が惡いとは信じませぬが、三人机を並べて事務を執つてをる中の兩人が眼鏡裝用のお蔭で一人は欠伸をせぬ樣になりましたし、一人は午後になると脚が倦怠と云つて椅子の上へ正座する癖が止みましたから、僕の腦の惡いのも、或は眼に故障がありはせぬか調べて呉れとて來たられたは、某紡績會社の事務員（二十八歳）精診の結果、凸圓柱レンズ六十番を裝用せしむる事となつた。越えて一ケ月報じて曰く、腦症の消褪は不思議の樣なり、加之有難い事には齒痛の消散した事だ。

今迄官公吏と異るから、止むを得ず剃刀を當るものゝ、其直後風にでも吹かれると何とも云へぬ齒痛を覺えた。ヤレ神經痛だ齲齒だと服藥もしたし塡充もしたが、一向に效がない、他人から無精者とか無禮者とか笑はれても、痛みに換られず、閒流して居た處が、近來は隔日には剃刀と親しむ樣になつて、大分男振を擧げたとの評を受る樣になつたとの事である。つまり此人は神經衰弱に基因した知覺過敏が、齒痛となつて現はれたのである。

三、腰痛

岐阜縣揖斐郡○○村農業三十三歳の婦人、昨年末から小兒の看病の爲か、不眠の爲か、眼脂が出て困るとの事で受診に來られた。診ると結膜炎で大した事はないが、視格が遠視性亂視である。ソコで平生の容態を尋ねると型通りの神經症狀を並べ立てられる。其上十二三年前から腰が痛む持病があつて、之にはあらゆる手當をして見たが、或は僂麻質斯或ひは子宮病と云ふ事で、婆さんの樣に時々脊を擦り〳〵今日に及んでをる。按摩、針、灸、マッサージ、藥も服用めば溫泉騷ぎまでしましたが、頓と效能がないといふことであつた。ソコで凸圓柱六十番軸向零度と云ふ眼鏡をかけさせて見た。是亦十數日を經て、さしもの腰痛がカラリと平癒し、まことに眼鏡樣の不可思議の大慈悲力、どういふもので治癒つたのでしやうとの反問もおかしいやうである。

此症例と同樣に神經衰弱から起る身體諸所の痛みと、僂麻質斯から來る痛みとはまゝ混同されてをる事がある。

四、肩の凝り

名古屋市内某木綿商の主人公(四十一歳)未だ然程の年齢でもないのに、肩の凝るのが持病とあつて、仕事を爲るにも對話をするにも、時々は不覺肩へ手を遣つて顔を顰める間の惡さ。一日働いた擧句に浴る湯加減にての鬱陶しさを拂つて、ヤレヤレと、のんびり爲やうと思つても、意地惡く肩は依然として石の如くである。定例として按摩を傭ふても、オイソレとは碎けて來ず、强揉みの按摩々々と探しぬいて其人を更へる事幾人なるを知らず。いつも寢衣の肩の邊は期月ならずして絲が拔けて擦り破れるといふ有樣であつたが、不圖人より傳へ聞いて斯の視格矯正をやつて貰つて、凸面眼鏡四十番を裝用する樣になつて以來、殆ど全く肩から重い石を卸して、按摩さんとは仲違ひをして終つたと云ふて、喜色滿面禮を云ふて來たのがある。

五、肛門瘙痒症

十年以前より肛門部に痒い感があつて、起居意の如くならず、如何なる病で有らうかと思ひ乍らも、眞逆に是が神經衰弱症の一症候とは思ひも寄らず、其儘過ごした所が、昨今眼が紅く腫れて、讀書に困難を感ずるに至つたとて受診に來られた。滋賀縣師範學校の先生MK君は、是亦精診したところが、肛門部にも何等の異狀なく單に遠視なりと診定して、凸六十番の眼鏡をかけたところが、其後眼の充血も去つて、讀書も自由となり、附錄として肛門の痒感も拭ふが如く消え失せた。コンナ結構な事はないといつて笑つてをられた。是も亦神經衰弱の一症狀として、原病が治りたるがため、其症候消滅したるに過ぎない。別に怪しむに足らぬことである。

六、陰門瘙痒症

本症の原因も、子宮疾患とか膣の疾患とか、或は蛔蟲刺戟とか、各種の方面から

將來することは解りきつた話であるが、是は官能的故障であつたものと見え、神經衰弱症の治癒と共に、雲散霧消して終つた。隱しどころの障りは、若い女子のソレとは云ひ出し兼ね、獨りクヨ〳〵物案じ、人こそ知らぬ大方ならぬ苦みの、拭ふが如く去つたのは、眞に望外の賜でありました。と染々禮を云はれたのは、某夫人に複性亂視を矯正して置いた賜であるが、此人は今迄に、ヤレ「レンチエン」、ヤレ「ラヂウム」ヤレ電氣と、理學的の療法は勿論の事、浴る程內服藥に攻られたのであつたさうで、當院へ來らるゝ前に、視格矯正の話を平素かゝりつけの醫師に相談した處が、貴下の病氣は氣から出たものだから、自分の思ふ樣にやつてみるがよからうと。ランデ相手に成つてくれませんでしたが、御蔭樣で有難い事ですと、感涙を浮べての物語りであつた。

第五、視格矯正による運動障害の治癒例

一、書痙

書痙と云へば隨分厄介なもので、殊に刀筆に親しむべき職業に在る向では、申さば飯の喰ひ上り、或は又風雅の人々にても、折角の錦心繡腸を、自ら愉快に文字に現はし得ぬが如き、實に小五月蠅きものであるさうな。而して其因つて來るべき原因にも三種程もあつて、學理上色々に解釋せられて居るけれども、偶然に治癒したといつて、悅んで自ら謝狀を書いて寄越されたのがあつた。此人は三年前の春潛在遠視〇、七五を矯正して置いた近在の俳句の宗匠であるが、此書痙の爲めに、他の職業の人と異つて、鉛筆やペンで削添することが叶はなかつたから、不斷非常に苦惱

を感じて居られたとの事である。

二、吃　吶

青年にして學に志し、其講堂に立つも遊園に在るも、同輩との談話交遊の間、其口吶る癖あらば、如何に心苦しいことであらう。名古屋市立商業學校の一生徒で、其名をY君といふ一青年が、數日來眼が腫痛みて脂が流れ出て困るからとて來院したが、此人は曾て「トラホーム」を患つた事があつたけれども、今は已に癒えて痕なく、單純の急性結膜炎を認むるのみであつたが、談偶々學校の事、勉學の事なぞに及びたるに、彼は嗟嘆して、勉强は吾人の生命なれども、何故か倦怠し易く、統一りたる勉學が出來ず、頭腦常に朦朧として手足倦るく、年齡に似ず肩などが凝り固まつて心持ちの惡い事限りがないといつて居た。サラバと精診して見ると、豈圖らんや立派な遠視性亂視であつた。そこで凸圓柱眼鏡の六十番といふのを、軸を横にして裝用がつたところが、遠近忽ち明瞭となつて心身の爽快を覺えたと言つて居た。

彼は其後二週間を過ぎて來院し、腦裡が輕快になつて、大變勉强が仕良くなり、洵に生れ變つた感があると禮を述べて、更に容を改めて、至誠の溢るゝ面持ちで語るには、生は不幸にして幼より口が吶つて、心私かに煩悶に堪へなかつたのに、今度斯の視格矯正をして頂いたが爲めに、此宿痾が拭ふ如く癒つたといつて、切に感謝の意を表して居つた。

思ふに神經衰弱の爲めに、言語の澁滯すべき事は、既に公知の事實であるから、視格矯正の結果神經衰弱が癒つて、言語が澁滯せざるに至つたものと考へられる。けれども其成績のあまり良好であつたには、吾人も實に今更の感があつたのである。

三　關節痛

或る日關西の實業家某君が來院して診察を乞はれた。某君は四十歳とのことであつた。一診すると、潛伏遠視一、五曲光力の存在を認めたから、諸般の診査を終つた後、身體の何處にか異常がなきかを尋ねたところ、數年來、股、膝、足の諸關節に發作性の疼痛を來し、諸般の治療を受けたが、一進一退して近來特にその度を高め、安眠が出來ないとのことであつた。

そこで他日を期して矯正眼鏡を選定するを約し、歸宿せしめたが、翌日來院して矯正に先ち、某氏は余に、

『眼に異常があるといふ事ですが、自分では未だ嘗て視力が乏しいと思つたことがない。また毫も眼に就て苦惱した事もない。眼鏡を裝用したら果して痼疾から免れることが出來ませうか』

と質問した。茲に於て予は斯樣な症例の多數に遭遇した事がないから、効果如何を豫言することが出來ないと告げたら、某氏はちよつと躊躇された。が余は乞はる盡に、矯正後凸一、二五を上半部に、凸三、二五を下半部にしたフランクリン氏眼鏡を裝用したところ、某氏は翌朝再び來院して、眼鏡の接續部が何となく視界を害し、不快であつたとか、遠見が霞むとか、眼鏡の鼻當りの個處が壓迫に堪へぬとか、或は却て頭痛を釀すとか、色々の苦情を申立てて、予もちよつと閉口したが、何事も辛抱であると、單簡に刻つけて置いた。

越えて二ヶ月後某氏は三度來院して互に挨拶を終るや否や、氏は憤然として詰問して云はるゝには、

『爾來左右交代性に襲來した下肢の關節痛は消ゆるが如く消退して、起居動作を害せざるのみならず、實に爽快で堪らない。斯の如き効果が著しいにも拘らず、以前來院した節、かうだと確答されなかつたのは、餘りに無情ではありませんか、然し從來治癒を保證して呉れた、醫師からは更に効果がなく、豫期しなかつた貴下から却つて賜があつた』と恨みやら感謝やらをチャンポンに縷言され、大に面喰つた事がある。それで『醫學は深遠であるから、素人が考へるやうに、一筋には參らぬものだと云ふ事が御理解になつたらう』と笑つた事である。

神經性の關節痛は、書物の上には、安靜、轉地等の事が記載してあるに過ぎないから、眼鏡を裝用することによりてこの苦痛から免れ得ようとは、ちよつと誰にも思ひ當らぬ事であるが著者自身には左足蹠の刺痛に苦んだ苦い經驗がある。

四　失聲症

此の例は、神田區雉子町醫師三井賢恭君の實驗せられたもので、極めて珍らしく余の數千例の內には一例も無いので、玆に記載する。同君知己の某布敎家(四十歳)が十數年前、近眼になつたと思つたので、眼鏡屋で自ら適當と信ずるものを購つて裝用した。それからのち數回漸次に强度のものと交換し、最近十年間は近視眼鏡の十六度を裝用して居られる。五年前より肩凝、頭痛、健忘、失聲症などの症狀を來した。此失聲症には最も困られたと云ふことである。例へば職務上の講演中に急に聲が止り、演說を中止せねばならぬ樣になる。每常、講演中に聲が出ぬやうになるのではないが、一ヶ月に一二回位づゝはあつたとのことであつた。醫師に就て神經衰弱といふ診斷の下に治療を受けても、更に効果がなかつた。

處が一昨年の六月、三井君がふとした機會に『君の眼鏡は適合して居るのかい。前田博士の病院では、眼鏡を裝用させたり或は不適當の眼鏡を改めさせたりする。かうして神經衰弱の治るのが澤山にある』と云つて、眼を檢査し『いかん、いかん、是は强過る』と近視十六度のを八十度に改正せられた。すると數日間は遠見に苦むと喞つ中に、今迄の苦惱が拭ふが如くに去り、失聲症も起らず壇上雄辯滔々たるものになつたと云うて、私の處へ來て話されましたのが一昨年の八月であつた。今度の改版に就て此例を附け加へたいと思うて三井君に問合せると、其後引續き具合よく、今日迄約一年七ヶ月間に一回も失聲症は起らないと、同布敎家も不適當の眼鏡が斯の如き影響を來すものかと驚いて居られると云ふ事である。三井君は此の事を一昨年九月に『靈響』と云ふ雜誌に『肉眼と心眼』と云ふ題で書いて居られる。

四、聲音の嗄嘶

愈々出て、愈々奇妙に感ずるのみで、予自ら實際かく迄效力あるかと、奇異の思ひに打たれる事である、けれどもソレが事實であるから致方もない。某店員の某君（二十五歳）が、耳鼻咽喉科の諸大家から、慢性の喉頭炎と診斷せられ、大勇氣の下に禁煙を斷行して迄も、專念養生を續けても、一進一退で思はしく行かなかつた。處が斯の視格矯正の結果、凸圓柱レンズを裝用する樣になつてから、腦症狀の拭ひ去ると共に、從來非常に聲がかすれて發音にも苦しく、人聞きもよくなく、殊更に電話には何度も〳〵聞直されるのを苦にして居たのが、奇態に治癒したとて大悅びである。此人は恐らく聲帶の作用不全に基いたものであらう。

五、脚氣

中學四年の學年試驗が終つた時分から、一寸脚氣の氣味が有つたけれども、左程氣に懸けずにをる中に、漸次增進して來たから醫師の注意に從つて暑中休暇には轉地療養に專念從事した。夏去り冬來るも中々に治癒しない。五年はメチャ〳〵に過して、卒業丈けはさせて貰つたもの、、高等工業の入學試驗も思ふ樣に行かず、丁度今年で滿三ヶ年、年中引切なしの脚氣で苦められてをる。友人の勸告に從つて診を乞ふと來院せられたのは、血氣の溢れる計りの二十歲の青年某君、精診すると視力は完全であるが、潛在遠視の四十番を發見した故、其眼鏡を裝用させて置いた。越えて四週日來院して曰く、心悸亢進と、下肢の運動及知覺麻痺何時となく消散したのみならず、三日に擧げず襲來して苦しんだ腓腸痙攣が全然治癒した。猶頭が輕くなつた樣に思はれる。コレでこそ高等遊民たるを免れる事が出來ようと自信する。持つべきものは友人であると、何れに謝意を表するのやら莞爾として歸られた。

第六、視格矯正による循環、呼吸、消化機能障害の治癒例

一、心悸亢進

所謂慟悸の高ぶるのは、また心持のよくないもの、一つである。胸騷ぎがする、慟悸が打つ、不愉快の極みであつて、何となく心配になるべきものである。三重縣某中學校の一生徒、二十二歲の人、一般神經衰弱の症狀を具へて、就中夫の心悸亢進に苦しんで、終には胸騷ぎがして、惡心嘔吐などを起すこともあるとのこと、矢張り遠視の患者で、凸面六十番といふを裝用せしめたところ、三週間の後諸症狀全

く去つた。是亦別に不思議もない。心悸亢進が神經衰弱の一症候であることも理解さるれば、其神經衰弱症が斯く新發見法で治癒されることも可解せらるゝ筈でなければならぬ。要するにかく着々治癒の實際に遭遇した患者本人からは、宛然夢のやうに思はれて有難がらるゝのも亦其處であらうと信ずる。

二、肺結核の初期と誤られし例

三重縣津市に居る二十八歳の青年が、腦病の爲めに早稻田大學の商科を半途でやめて、斷然農業に從事し、其土地の青年會の幹事なぞに推されて居た。此人が數年來盜汗に苦しみ、諸方の醫師に見て貰つて、盜汗……肺病……といふやうな聯想的概念からでもあつたのか、肺結核の初期なぞとお定まりの診斷を受けた。そして際物のツベルクリンの注射まで試みたといふ話である。然るに此人が近頃眼がクシャつき出したので來院せられた。よく檢査して見ると圖らざりき、潛伏遠視の而も二十番といふ却々强度の物が適用せられた。ところが不思議なことは、其後日を經るに從つて盜汗の量が減へ、半月許りの後には全く其痕跡だも無く、毎夜就眠前に準備した着代への寢衣が要らなくなつて了つた。そして六ヶ月も經つた後は食慾も進んで來れば、體量も增加して、かの恐るべき肺病は斯して全く癒つて了つた。

此人もまさかに肺病が眼鏡で治ると思はなかつたであらう。無論眞の肺病であるならば、そんな具合に手輕くゆくものでは無いが、世上一般に自分の視覺に異常のあることを覺らないで、此樣な運命に呻吟して居る人も多々あらうと思ふ。さういふ人は充分に其資格を調査して貰つて、其異常の有無を確かめ、病源を一層鄭寧に吟味して見るがよい。

三、喘息

枇杷島に居る或青物問屋の主人(四十二歳)が喘息に惱み、今年も其發作に苦しんで某醫に注射して貰つた程である。ところが後で眼球が痛み、涙が流れ出したものだから、てッきり注射の爲めだと思つて、兎に角診察を受けに來た。そこで視力を調べて見ると、普通人の約五分の一で、初めは近眼鏡をかけると明かになるとのことであつたが、更に反覆して丁寧に檢査して居る內に、遠視眼鏡四十番で明瞭に見えるといひ出した。そこで其眼鏡を用ひて居たところが次第に肩の凝りや手足の倦怠や、其他種々の神經症狀がとれて、剩へ持病とのみ諦らめて居た喘息が、それからフッツリ起らないやうになつたので「自分は眼の療治を受けに來た筈であつたのに、はからず持病の喘息迄治療して頂くとは存外です」と、不足やら何やら分らない樣な喜悅を漏らされた。

四、肺病胃腸病と誤まられし例

岐阜縣羽島郡某町の縞商IT君は、某醫の紹介に依つて神經衰弱として受診に來られた。聞けば多年の間アチコチの醫師に受診したのに、嘔吐があつて腹痛がするから胃腸病であらう。ソレが治癒らぬとあらば、或は可恐肺結核の初期であるかも知れないと、尤も千萬の診斷を受け服藥手當に日を送つたが、元より一向に效驗あらう筈もなく、漸く今回の某先生に神經衰弱と診察てられて、百方盡力を受けたけれども捗々しくない。ソレでは と某先生の添書を持つて來たのである。そこで精診の末凸圓柱眼鏡四十番といふ眼鏡を軸橫に用裝つた。すると由來朧乎として居た縱の線も橫の線同樣明瞭として細かい帳面などの仕事に倦きが來ず、大々的愉快なり

との大氣焰であつた。其の後二十日程經つての話に「先生例の胃腸病も肺病の初期も何處へやら往きました。肺病といふものは恐ろしいものと聞き及んで居たが案外のものです」などと喜びの餘りの洒落なども出た。是は原病たる神經衰弱が眼の過勞から來たもので、其矯正で本病が治り、同時に其症狀であつた惡心とか嘔吐とかの容態が治つたものである。

其根幹を治すれば枝葉自ら癒ゆべきものである。之に反して其末のみに拘泥して、其源を研究せないでは、とんだ肺病の初期などが出來て、人騷がせをせねばならぬ。思ふべきの至りである。

五、反芻の癖

牛の胃袋が反芻するやうに出來て居るために、始終牛は口をモガ〳〵させて居る。

涎も出る譯であるが、人はソーはゆかぬ。他人の前で如何やうとも口をモガ〳〵させるわけにもまゐらず、かと云つてコミ上げて反し來る食物の、再び嚥み下す頻繁の藝當、まかり間違へばギャット時ならぬ大失態も氣遣はねばならず、殆んど持て餘すものは此の癖なり、胃病の人の嘈囃さへ心持よくなきものを、世に活動く一人前の男子としては數ふべき煩惱の種なるべし。只單に胃病の爲めとのみ信じきつて各方面に胃腸病の看板を尋ねて受診したれども、一向に效驗なく、さりとてよもや神經衰弱症の副へ物とは氣付かず、其日々々と暮れて來たのが、此視格矯正に依つて腦症狀の減退と共に、何處へやら逃げ失せた、コンナ筈ではなかつたと、態とコミ上げんとするも、更に不應、變な事もあればあるものぞ、我人共に首を捻つたのであつた。之は郡部の機業家某氏が、凸圓柱レンズ裝用後半歲を經ての談である。

是亦新しき治驗に加ふべき面白き例證であると信ずる。

六、癪（胃痙攣）

名古屋市内の某會社の女事務員（二十五歳）ヤレ「ヒステリー」であるの、ヤレ胃病であるのと言はれて、某高等女學校卒業後七八ヶ年の間、毎月の手當は醫者に入れ擧げたばかりではなく、癪持扱ひをされて不愉快に暮して居たが、先頃婦人科の醫師の勸告によりて來院せられたから、早速と視格矯正をして遠視性亂視四十番を裝用せしめてからは、頓に諸症が癒えたのみならず、非常に身體が生き〳〵して來て營養がよくなつて、餘りに多く肥らずもがなの女心に、却つて心配にもなるやうな心持がしますと笑ひ話に興が乘つたことがある。これなども神經衰弱の結果として胃中の酸が多く分泌せられて、其の爲に胃の痙攣を起して居たものであらう。

七　胃筋衰弱症（胃弱）

未だ青春の醫師A氏は十數年來の胃病に惱まされ、詮方盡きて或一日余が診局を來訪された。一見顏色蒼然として、そゝろ其病苦の程も察せられた。依つて一診せしに潛伏遠視一〇曲光力の存在を認めたから、精密なる視格矯正を施して、遠視眼鏡四十番を處方し置いたに、其後さしもの頑症も全癒するに臻つたと云つて、悅びの餘り長文の謝狀を寄せられた。胃アトニー治癒の好例であるから、A氏の承諾を得て、此所に其一部を拔いて左に掲げることゝした

『私は生來胃は餘り丈夫な方ではありませんでした。夫れが何時の頃よりか、全くの消化不良に陥つて、下腹部は常に重苦しく、便通は結し勝ち、時には便秘が一週乃至二週日も續いて不快でたまらず、憂鬱の氣分は日增に募り、すこしつめて讀書

てもすれば直ちにのぼせて顏面頭部には不快なる溫感を來し、從つて頭腦は不活潑に朦朧として何一つ頭に止まる所のものとてはなく、斯かる折など止むを得ず就褥するを常とするけれども、何時かな睡りに入るべくもあらず、床中只轉輾として胸部の壓重に身をもだゆるのみ、或は深更戸外に飛び出し、足に委せて逍遙し、遙に闌干たる星斗を仰ぎ見ては『苦しい時の神頼み』で吾識らず不眠の苦痛を訴へて見ねばなりませんでした。

隨つて全身には斷えず堪へ難き弛緩を覺え、倦怠疲勞極まりなく、眞に苦痛に堪へませんでした。

噫一度でいゝから腹部の不快感がとれ、晴々とした氣分になつて見たいと思つて、學校が終ると直ちに野球に庭球、柔道とあらゆる運動をやり續けました。そして幾年かの間私は自分の病氣に對する怒と自暴とで、あらゆる過激な運動を一層激しく試みました。然しながら病症は依然として何等の變狀も來しません。けれども尙自己の學ぶ醫術は飽く迄も信用して、重曹苦味丁幾ストリヒニンの類は絶やせし事もなく、信頼せる專門の敎授(○○博士、△△博士)に診察を請うたが、只胃筋衰弱症(胃アトニー)或は胃擴張とのみで一向に治療の効果も見えず、或時は暖地の海岸に療養を續けたが駄目でした。最早總ての望みは絶えました。

進歩したといふ現今の醫學も自然の力も、私の前には最早何等の權威もありません。私は恨みました。世の中の全てのものを恨みました。同時にこんな運命に生れた私自身を迄恨まざるを得ませんした。總てが絶望です。若い望み多き、將た幸深かる可き私の將來は、永久に沈淪の裏に葬り去らねばなりませんでした。

然るに或日ふとした事より先生の御高説を拜讀し、豫て聞き及んでゐた事もあるので、何はともあれ、一應は御受診をと思ひ立ち、一縷の望みを得て、――併し尙半信半疑の域を脱せずして――參院しましたところ、早速遠視眼鏡の上半四十番下半十六番を御處方下され、裝鏡しましたけれども、始めのうちは、中央の條が邪魔になつて、五月蠅く、且つ遠近(上下)の使ひ分けが慣れない爲か頗る困難で、眼鏡が氣になり、殊に曇天の日等氣分のすゝまない折は裝鏡に堪へず、却つて頭腦不快の日が續きましたが、只辛抱が肝要との御言葉を守つて過ごすうち、二週間目位より漸次に氣になるのがなくなり、氣分も何んとなく爽快に、浮々して來たけれども、尙從來の習慣で、節食は嚴守して居りました。と云ふのは、以前通常の分量の食事をとり、或は菓子等を食しますと、必ず彼の恐る可き不眠、便秘、胃部重感等の猛襲に遇ひ、想起するだに慄然たらざるを得ないからの事です。實際友人等の牛飲馬食平然たるを見ては、全く奇異の感に打たれざるを得ませんでした。否々實は羨望に堪へなかつたのです。然るに今や感謝の日は來ました。喜びの日は到りました。嗚呼此衷心の感激を、博士！　何んと云つて申上げたらいゝでせう。私は！　私は！　只感涙に咽ぶ外はありません。

私は或夕べ、家庭團欒四方山の話に興がわき、身も心も寛いで、餘りに食欲の進むがまゝに思はず、大食して遂に滿腹、はつと氣が附いたが、早や後の祭、折角眼鏡の御蔭で氣分も晴やかになつたものを、明日よりは又胃部の不快感に惱まされる事かと思へば、今迄の愉快さも何處へやら、其後は又熟睡も出來ない事かと心配したのは笑止の到りで、深き眠に陷つて、醒むれば早や家族の朝食は既に了つて、

時計は九時を報ずるに驚き、とび起き出づれば、今日は日曜と云はれて、彌が上にも氣分は長閑やかになり、昨夜の心配は既に煙の如く失せて、思ふ存分朝食を貪りました。

爾來食欲も頓に增進し來り、夜は殆ど就褥と共に眠に就き、胃部の不快感は何時の間にか雲散霧消し、日毎に精神も肉體も健かに、殊に毎年春暖の候より夏期に亙つて增激した本症も、今年許りは此暑さにも撓まず恐れず、善く喰ひ善く寢ね、そして感謝しつゝ職務に精勵して居ります。

今更ながら遠視の害毒に想到して驚倒せずには居られません。云々。

以上は神經衰弱症に起因する胃筋衰弱症(胃アトニー)が遠視眼鏡裝用により、調節機の過勞がとれて治癒した一例である。

八、便秘

技術を應用する職務の人で、視力に故障があつたら、其困難は如何ばかりであらう。玆に砲兵工廠の熱田兵器製造所の銃工長を承つて居るIT君といふのが、二年前から遠見が利かぬといつて來院された。精診すると右眼は普通人の十分の一位の視力で、左眼は大した變りはない。色々と丁寧反覆檢査を續ける內に、右眼の視力の約五分の一位迄增して來たが、尙ほ十分ではない。加之横線が見能いとの答であつたから、一層精密に診察した結果、近視性亂視であると定まつた。そこで凸圓柱眼鏡十八番の軸縱といふ眼鏡をはめたところが、强健者同樣の視力が出て、從來は十五分間以上持續して勉强が出來なかつたのが、其後は一時間位は大丈夫といふ事になつたとて、荐に感謝の意を表された。然るに玆に稍々不思議に思はるゝ程偶然

なのは、此人の習慣である、辛うじて三日に一回といふ常習便秘が、近來は下劑一切を廢止したにも拘はらず、毎日一回誠に心持善く通じるやうになつたとて、ソンナ事ならば尻に許り藥を用ひず、早く頭の方を治すのに骨折ればよかつたと大笑ひであつた。是は最初十分に見えない眼を無理に使用つた爲に、調節機の痙攣を起して、ソレが色々と全身の故障を起して居たものである。

第七、視格矯正による生殖機能障害の治癒例

一、陰萎（男子）

名古屋市在住の鐵道院書記某君（四十二歳）といふ男、數年前より神經衰弱に罹つて方々の醫師に治療を求めて居たのであるが、近時視力遠近共に朦朧として甚だ不自由で、殊に讀書の際と來ては、眼瞼が搖搦して涙が流れ、頭が痛んで不快極まりなく、記憶力思考力などは非常に乏しくなつたのみならず、實は四ヶ月程以前から陰萎症になつて人生の悲慘事とまで鬱ぎ込みたくなる程であるとの話、サラバと精細に檢査を續けた處、果然同君は遠視の可成高度の者であるのを發見して、凸面眼鏡十六番を裝用した。ところが幸ひ哉神經衰弱の諸症狀は漸次消退して、今では全く其跡拭ふが如きものがあるといふ事である。夫の鬱ぎ込みの一因なりし陰萎症も、不知不識の間に恢復したといふ事で、丁寧なる感謝狀を寄せられたのは、丁度治療後約四十日程の後であつた。神經衰弱の一症狀として隱萎の起るのは眼の關係に因つて來て居つた神經衰弱であつたものだから、一朝にして其勢力を恢復し得たものであらうと思ふ。

二、陰萎（女子）

蘂螈の黑燒でもなければ、眞逆に佐渡の土でもない、眼鏡がお役に立つたぞよとは神武以來無き圖ならずや。頃日某縣下より來つて受診せられた某女史、色々な容態を述べた後、羞み乍ら實は妾陰萎に罹り、品行方正の良人に對して氣遣ひもあり且つは何となく心なしかは存ぜねど、一家の和合の程も心元なし云々との事なりしが、凸面眼鏡裝用の後、越えて三旬、其效果意外なりしを述べ、頻りに感謝の誠を陳べて歸られたる後姿の晴やかに、先の日診察せし日の曇り勝ち徂く春のはかなき氣分全く失せて綠色添ふ淸明五月の天、其喜びも然こそと思はしめた。

三、夢　精

これは神經衰弱症の一症狀とも見做すべく、其本病の治療と共に平癒すると云はば夫れ迄であるけれども、特に新しく此煩惱から脫し得たのを喜んで來た患者があつたから、特に新治例の一に加へて置きたいと思ふ。勿論血氣旺盛の人々には生理的に多少遺精を來すことは定まつてゐるけれども、夫れが月に數回も十數回もあつては到底やり切れるものではなく、此際必ず面白からぬ夢に襲はれるものであるから、不快に伴つて衰弱の襲來を免れぬものである。

四、早　漏

やはり視格矯正により最愛の細君が精神的に復活せられたのを見て、感謝やりどころなく、且つ喜び且つ呆れ、頓て行李を整へて出名、拙者亦多少の神經衰弱あるを自覺す、願はくば視格の高診を仰がんと言ひ出られた。一診するに、成る程神經衰弱たるべき症狀を備へて居る。然らばと長時間努力して視力の檢査にかゝつた。

果然相應の結果を得たものだから、乃ち其視格の矯正を爲て置いた處、十數日後になつた其結果の良好なるを報ずると同時に、實は尾籠乍ら拙者本病の爲なりしと覺ゆ早漏の傾向ありて、常に其本復を祈つて居ました爲、心私かに大なる希望を有つて御診察を受けに來たのであつたが、幸にして本願成就、爾來啻々視格矯正の作用の玄妙なるに驚いて居ますとて、家内平和の御祈禱所と間違へぬ許りに諧謔を述べて謝意を表せられたのは、予にとりても兎も角も一新症狀が平癒したといふ例證として愉快に感じた次第である。

五、月經困難症

今より丁度四年以前に、遠視性亂視を矯正して置いた某夫人より、過日偶然左の報導に接して、同慶の意を表して置いた事がある。女史は十八歳で結婚せられてから、毎月一週間前後といふものは、經血の來潮に伴つて下腹部から腰と股とへ向けて、刺すやうな引裂くるやうな痛みが襲來し、時としては失神するやうなこともあつた。そして婦人科專門の大家に診察の結果、前後二回ほど全身麻醉で手術を受けて、幾分か緩解したと思つたのも束の間、一時は人に羨まれた容姿も、何時となく消え行きて、始終垂れ込み勝ちに味氣なき浮世を送られて居たところが、急性結膜炎を起された際に、眼鏡裝用を勸告して、事と品によつたらば疝痛が去るかも知れぬと申し置いた爲めに、賴るは眼鏡と、始終離さず掛けて居た内に、一般の神經症狀が拭去ると同時に、今迄執念深く苦しめた疝痛がケロリとやんで、今では二人目の可愛いのが出來て、家内中大喜びとの事である。

以上は予が治驗例の一部分を擧げたのに過ぎぬ。これに依つて讀者は視格矯正が

意外な方面にまで効果を及ぼすことを知られたことであらうと信ずる。蓋し神經衰弱其者が從來述べ來つたやうな多種多樣の症狀を呈するからには、其の根本が治療せられた以上、其症狀の消退するは不思議でない譯である。

かるが故に、我は「神經衰弱なり」と自覺して居らるゝ人々は無論のこと、又內科の醫師から「あなたは神經衰弱である」と診斷せられて居る人々、及び自分では眼力に何の變化もないと信じ切つて居る人々でも、どうも近頃は「頭が重い」とか、「逆上て困る」とか、「眩暈がする」とか、「頭痛がする」とか、「物忘れをして困る」とか、「馬鹿に肩が凝る」とか、「何となく不快沈鬱で困る」とか、「職業が厭である」とか、「物事が倦きつぽくなつた」とか、「近い仕事が出來難い」とか、若しくは「いやに眠氣が催して困る」とか、或は「不眠に苦しむ」とか、又は「記憶力や思考力が減退して困る」とか、よし其等の症狀は無くとも、單に「胃病」といふ名稱の下に、消化不良、便秘、嘔氣嘔吐に困つて居る人々、それから「心臟病」といふ診斷を受けて、胸部の動悸に苦悶して居る人、或は「私は年中脚氣だ」といふて、常に脚が倦怠く、手先や足先が冷えたり、麻痺したり、レウマチスだなぞと信じて、諸所の筋肉や關節に遊走する痛みに困却したり、別に痛む所は無いが、何となく全身なり局部なりが「痒くて困る」といふやうな容體に罹つて居る人があつたならば、其等の人々は素養あつて然も職務に忠實なる眼科醫に就て、一應眼力殊に屈折異常の檢査を精密に仕て貰ふ事を自分は衷心からお勸めする。

勿論繰返し〳〵言ふ通り、神經衰弱の原因は多方面であるから、一概に盡くの神經衰弱なり又は所謂腦病なりが、視格を整正したので治癒るといふ譯には行かな

い。然し乍ら屈折異常は中々多いものであつて、且つ其檢査をうけることはあまり六ヶ敷いことではないと思ふから、他の原因を調べて當らないものは、必ず一度は視格の檢査をするがよい。蓋し實際それは效果のあることで、少くとも予の病院なぞに於ては積年の苦痛を一掃して、强壯になつたと今更の如く大喜びで居る人々が案外多數であるからである。

第六章　新發見の社會に及ぼす影響

第一、人の性分を改造する方法としての視格矯正法

孟子の所謂性本善なりとか、荀子の所謂性もと惡なりとかは、予の此處に論ぜんとする次第ではないが、人の性格習癖等を改造せんが爲の方法中に、予は予の斯の治療法を數へたいと思ふ。人心を改善するのは、實に國家及人道の最大にして、然も最緊急の事でなければならぬ。宗教家は熱心に叫んで之が爲に奮鬪して居る。教育家は孜々として之に努力して居るのみならず、爲政者は不絕此問題を其頭腦から離したことはあるまいと思ふ。夫の庠序學校より教會佛舍の道場に至るまで、切に此問題を完全に成功せんことに日も維れ足らないのみならず、或は懲治の目的を以て勞役を課するとか、又は所謂社會的の制裁を以て之が改善を促すとか細は小學校家庭等の叱責より、大は道德法律の支配に據る制御に至るまで、あらゆる機關方法を以て之を敎戒し、若しくは誘掖しつゝあるのは誠に結構な事で、人心の善良はやがて國運の發達となるのは解りきつた事である。近時人心漸く歸向を誤らんとするが如き傾向あるに際して、世の政治家が熱心に此方面に留意しつゝあるのは、國民

として正に感謝に値するわけである。

教育も宗教も將た又政治も、實に人を善良に導きつゝある、立派にして必要なる機關であることはいふ迄もない儀であるが、世の中に若し其人の身體に隱れたるか又は發見し得られざる病的缺陷が潛んで居て、之がために其人の性行が直行せず、ともすると偏執のやうになり、それが爲めに非德義の行爲をなしたり、甚しきは刑辟に觸れるやうな擧動でもなすやうなことがあつたならば、素々所謂性は善なる無垢の良民善人が大へんに誤られたる批判を受けねばならず、どうかすると一度び此災厄に遭ひて其本然の軌道を逸して、終にあはれ自暴自棄となつて、あたら人の子をして、取返しのつかぬものとして終ふやうな場合がないでもなからうと思ふ。或は之が其症狀增惡して已に精神病者であるなど稱せらるゝに至らば、世の人も之に向つて嘲笑的同情を以て冷評する位に止まるけれども、其病未だ充分に外に形はれざる場合、若しくは醫人と雖も是れが檢索に盡力するに非ざれば、容易に發見せられないといふやうな不幸な病氣を有つて居る人に對しては、實に衷心から其薄倖に同情せねばならぬことゝ考へる。更に之を小にしては、一家の家庭で學校の成績が思はしくなかつたり、怠惰であつたりなどする兒供があつたり、又は商工家の徒弟などで捗々しく仕事が進行まぬとか、居睡りばかりするとか、寢小便をするとか、其他色々な習癖がある爲めに、無暗矢鱈に父母の慈愛の笞を受けたり、主人や番頭さんの癇癪的お小言ならばまだしも、往々にして十露盤なんどのお見舞を受けたりするやうな可憐な場合が多々あると思ふ。

夫の軍隊などで一隊に長たるべき人々に、生理的の素養が必要であつて、其部下

の身體の狀況に注意して命令を發するために、各個夫々異なつた身體を有つて居る多數の干城の身にも、過ち無く治まつてゆくやうな譯で、どうしても家長たる人や店長たる人々は、其家族又は店員等の健康狀態に留心して、而して之を勘定の中へ入れて其人間の短所又は缺點に對して貰はねば、本統ではなからうと信ずる。

身苟も怠るべき原因あり、痴鈍なるべき故障あつて、終に之を長上に知られず、只一筋に性格不良と斷定せられて、其治療どころか逆まに鞭撻叱責せらるといふ境遇に在るもの程氣の毒な事はなからうではないか。

予が稱導實驗せるところの視格矯正法によつて、神經的諸種の疾患が治癒せられて、其患者から續々禮狀を寄せられるのを讀むにつけ、不圖思ひ付て右に述べたやうな開拓に注意したならば、是れは決して自分一個などの小さな問題ではなく、往〻は人を救ひ世を濟ける一端となることであると思はれる、

第二、國家社會の福音

かの有名なる前東京醫科大學教師ベルツ氏が、其著書に神經衰弱の原因を說いて、日本の學生は勉强に過ぎて、其試驗前等には殆んど定型的に本病の增加を見ると慨嘆して居るが如く、實際修養期にある青年が頻々とし斯病に冒され、心を靜めて讀書すること能はず、徒に煩悶憂苦して悲歎の境に彷徨するものは、日一日に增加せんとする傾向を示し、可惜俊秀の才を空しく馬蹄の塵の中に葬らねばならぬ運命に搏らるゝことは、單に個々の生命に關するばかりでなく、國家の一大損失であるといはねばならぬ。

惟ふに勉學に際し最も主要なる役目を負ふものは、言ふまでもなく眼其の者であ

る。從つて生存競爭の激烈なる今日、勢ひ眼の使用を多からしむるのは當然ノ理で、若し先天的異常が存在して居たならば、必ずや調節力を過度に働かせて、ロら腦に故障を及ぼすに至る譯である。

今や幸にも予が專門の領域に於て、多少の努力を惜まなかつた結果、着々會心の結果を收めつゝあるのは、社會國家にとりての一大福音といふも憚らざるべく、世の神經衰弱に悲痛の日送りをせられつゝある諸君は、一刻も早く、精確なる視格の檢査を受けられ、以て積年の苦惱を洗ひ去り、勇奮一番世に活躍せられむことを切望する次第である。

第三、終末餘談

こゝに努力の人があつて、學界の爲に一事を發見し、これを發表せんとする場合、偏狹なる島國根性の周圍は、是は快擧なり、美事なり、好發見なり、新事實なりとして、歡んで之を迎へ、或はともく其業績を成就せしめやうと勉むることをせず、ともすると之に恥づべき感情問題まで挾んで、只管に之を無效に歸せしめやうとする沮害的行動に出で、動ともすると脫線的に其發見者の人身攻擊まで持ち出し、あらゆる方法を用ひて邪魔をしやうとする、さもしい根性がないでもない。

そこへ行くと西洋などでは光風霽月、苟も學界に貢獻し國家社會及び人間を裨益すべき業績に向つては、多大の敬意を以てこれを迎へ、其成功を祈ることに勉めて居るのは實に文明的で、我國の學界に於ても追々かゝる好風潮を生じつゝあるのは、稍人意を强うするに足ることである。

學術上の發見の如きは、決して其發見者個人の仕事ではなく、大なる國家的事業

であらねばならぬのであるから、區々たる毀譽を顧みず飽くまで其確信ある創見に向つて猛進すべきである。本事業に就いても近時そちこちに略同樣の報告が現はれたり。吾人に贊成の論文が出たりするやうになつて來たのは、吾人の共に愉快を感ずると同時に、眞理は終に彼岸に到達すべきものと益々努力の臍を固めた次第である。

頻繁と相踵いで到來する照會狀の回答に忙殺せられて居る傍、相應の研究も繼續したし、又毎日多數の患者の中で、種々なる面白い容態の人々に就て一層趣味を以て調査し、而して此の方法を普及せしめて世の煩悶者を救ひたいとのみ思ひつゞけて居るのであるから、一々斬新の治驗例を報導することが出來兼ぬるのは遺憾であるが、然し珍しいと思ふ新治の實例は今後能ふ丈け注意して報告を怠らず、多少なりとも世を裨益したいと念じつゝある譯である。

序ながら申添へて置きたいのは、人情動もすれば浮薄に赴ける今日にも拘らず、嘗て視格矯正を受けられた當時を喚起して、種々と御芳情を寄せられた各位と、今一つは本作業に關し、直接間接に援助を賜はつた厚知諸君とに向つて深く感謝の意を捧ぐる次第である。

附錄

神經衰弱症の豫防法として將又近視眼の豫防法としての光力使用上の注意

世道若くは人心の爲めに、或る目的に向つて自己を牲犧として、所謂椽の下の力持ちをするのは寧ろ美擧であつて、時としては必要事に屬するのである。けれども夫れと是とは似而非なる結果の可ならざるを知りて尙ほ且つ之を將來すべき努力をなすのは抑も是を愚と云はずして何んと言はう。

けれども其事柄がソンなに宜くない事であるのを知らず、無意識にやつて居るのは實に憫むべきである。

(一)世をなべて物を見んとするに、其物體と我眼との距離を近からしむべく脊を蹐める人が寡くない。夫の諸種の事務家、坐業の人等が態とらしく跼くまつて其職を執りつゝあるのは、非常に多いと思ふが、是は其人の眼の調節機を使用すること過度となつて、折角の貴重なる機械を損じることゝなる。而して其結果は實に神經衰弱迄惹起するのである。

平凡なる事理ではあるが、言ふべくして行はれ難きは、かゝる瑣細な事柄である。さうして其僅かな不注意が比較的大なる惡影響を齎すのを考へて見たならば、吾人は決して之をつまらないといふことだと言ひ得ぬのである。然らば姿勢を正しくして決して跼蹐迂餘たらず、脊椎を正常に保ち濫りに頭首を下げ若くは傾けず、背を

抂げず、下腹に力を入れて胸を張り、所謂氣海丹田に心を置くが宜い。

普通の五號活字の大きさならば、鯨尺の一尺二寸から一尺五寸位で大丈夫讀書算筆に差支へるものではない。六號活字ですら一尺二寸の距離で明視することが出來る。

夫の春霄輕暖の時睡魔漸く襲はんとする際に、チョイトとばかり假睡の甲斐なき手枕にほの暗き簷端の影に書を繙き、又は簟の冷え心地宜き初夏の黄昏に打臥せとなりて會心の書を誦せんなどは、眼と物體との距離往々六七寸迄に縮まつて居ることが多いから、かういふやうな讀書等は一切無用とせねばならぬ。

人若し椅子にかゝりし仕事をするならば、平面の机に對ふよりは斜面のソレを適當とするのも皆此理に因るのである。

(二)室内の光線不足ならば讀書にも算筆にも自ら眼は物體に近づいて往くか、又は引力でもあるかのやうに、知らず々々に物體を眼に近付けるやうになつて、前に述べたやうな結果を來すから注意すべきことである。といつて光線が餘りに烈しく直射する處では人は此の過度の御馳走に飽食して、却つてクラ〳〵と幻朦を起すから之亦避けねばならぬ。之には其光線を適度に遮る爲めに、白色の窓懸を準備するのが上策である。猶又此の道理の下に各室の窓と床面との面積の關係を一と五とに定めるを宜しとするのである、即ち床面が五坪ならば窓は少なくとも一坪といふ割合である、又光線は上方から射入することを忘れぬやうにせねばならぬ。兎もすると誤解された勤儉家の家庭では、其部屋の窓や障子を帳簿の反古なんどで貼つて、得々として御座るのがないでもない。所謂一文惜みの百失ひとやら、墨のついた紙

でも光線を透すものと思つて居る。無智の象徴であつて愧づべき事である。

(三)かくて吾人は宵闇を忍んでも、燈火の節儉をするの愚を嘲らねばならぬ。勿論太陽西山に沒したる後は、吾人光を人工のソレに求むべきは解りきつた事柄であるから、其少しでも日のボンヤリとして來た彼は誰れ時には、速に燈火を點けるを要するのである。

昔者、我荻生徂徠先生、日暮尙書を放たなかつたと傳へられて居る。享保の其當時に於ては實に美談であるけれども、之を大正の今日では衞生上の見地から云はゞ、不攝生の擧と謂はねばならぬと思ふ。吾人は諸君と共に此の場合唯だ先生の勉强力を嘆美して、夕方には早速燈火を點けやうではないか。(夫の有名な車胤が螢光に依つて勉學したといふのも、亦之に類する事である)

於茲吾人はさらば其人工光線の種類に就いて、どれが最も適良であるかを研究して見たいと思ふ。今日では曰く石油、曰く瓦斯、曰く電燈と解りきつた話であるけれども、チヨイと間誤付かぬでもない。瓦斯はアウアー氏のマントルが發明せられてから、極めて明るくて價格も廉いけれども、熱を多く發し過ぎるといふ短所があるのと空氣を汚すのを厭ひたい。電燈は其明度と價格とに於て瓦斯に劣るけれども、熱を發するのが寡いのと、空氣を汚染せぬといふ長所がある。較べ來ると先づ以て勝負無し引分けといふ格がある。石油とて今日では其ランプにマントルが出來たものだから、結構であるのみならず、電氣、瓦斯を利用し得ぬ山村水廓では之れでなくてはならぬといひ條、單に衞生の上に之を電氣、瓦斯の燈火に比較することは出來ぬ。

かゝて兎も角も其日光にあれ、將又何れの人工光線にせよ、其射入の方向は常に左上方から之を求むるやうにするのを、理想的であると考へる、尙ほ此人工光線の事に就いては、他日機を得て詳細にお話することゝしたい。

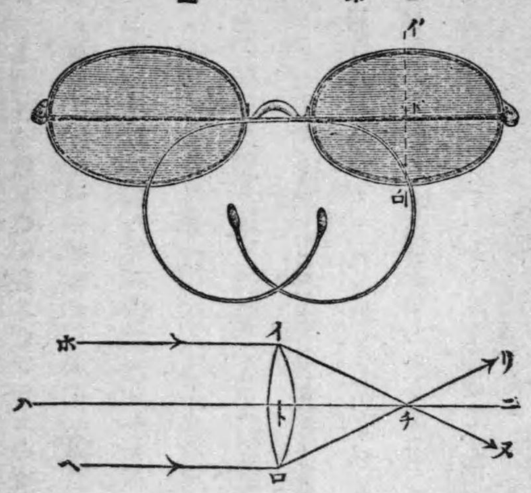
眼鏡の話

眼鏡を大別すると屈折眼鏡と保護眼鏡との二種となり、保護眼鏡とは光線、塵埃、風、異物、溫熱等を防ぐ目的で裝用するもので、自動車の運轉手、飛行家などの裝用する眼鏡や着色眼鏡等が卽ち之である。これは神經衰弱には關係の少いものであるから其記述を省略し、玆には屈折眼鏡に就て說明しやう。

屈折眼鏡は光線が眼の中に射入する前に先づ屈折せられて眼に達するやうにする目的で裝用するもので、眼の狀態卽ち遠視、近視、亂視、合併亂視、老視或は調節機麻痺等に應じて、光線を屈折し、眼底に明瞭なる像を結合させるものであるから、屈折眼鏡の說明は結局レンズの說明である。レンズは通常硝子で製造し、また硝子が最もよいのである。然し硝子にも色々の種類があつて、レンズを造るには無色透明の氣泡のないものが良い。詳しく言へば際限がないが、一寸素人目で區別するには、レンズの一端から透して見て青色を呈するのは良くない。偶〻水晶のレンズを裝用して居る人があるが、これは硝子製のレンズに比して非常に高價であるのみならず、水晶は紫外光線をよく透過せしめるから、此の點で硝子に數等劣つて居るといふべきである。以下順次にレンズを說明し、終りに眼鏡の枠のことを述べやうと思ふ。

一、凸面レンズ

第一圖



これは遠視及び老視に適應するもので、光線を集合せしむる作用がある。第一圖に示した「イロ」はレンズを「イ'ロ'」の方向に切斷した圖で、「ト」はレンズの中點、「ハニ」はレンズの軸と稱へる。今此レンズの軸と並行する光線「ホイ」「ヘロ」がレンズを通過すると此光線は「イヌ」及び「ロリ」の方向に屈折せられ、「チ」の點に集合する。「チ」の處を燒點と稱し「トチ」の長さを燒點距

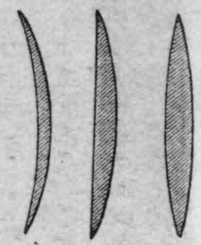
離といふ。此燒點距離の長さでレンズの度を決定するもので、此長さ一メートルのレンズを新式一度、一ヂオプトリー又は一D或は一・〇と記すのである。此距離が半メートルなれば二・〇、四分の一メートル卽ち二十五センチメートルなれば四・〇、十センチメートルなれば一〇・〇、また二メートルなれば〇・五、四メートルなれば〇・二五といふ勘定になる。通常凸面レンズは＋の記號を用ふるから凸一・〇度と記す代りに＋1.0と記すと世界中何處でも通用する。舊式の計算ではツォル尺であつて燒點距離が一ツォルのものが一番又は一度、十ツォルのが十番、二十ツォルが二十番といふ風に命名してある。そこで一米は四十ツォルに當るから新式一・〇は舊式四十番と同じで新式一〇・〇は舊式の四番に相當する。これを表で示すと次のやうである。

眼鏡度數比較表

舊式 番又は度	新式 ヂオプトリー又はD
120	0.25
80	0.5
60	0.75
40	1.0
30	1.25
24	1.5
22	1.75
20	2.0
18	2.25
16	2.5
14	2.75
13	3.0
11	3.5
10	4.0
9	4.5
8	5.0
7	5.5
5	8.0
3	13.0
2	12.0

凸面レンズのうち第二圖の「イ」に示したやうな兩凸レンズ、「ロ」に示したやうな平凸レンズ及び「ハ」に示した凸メニスクスとの三種類がある。兩凸レンズは普通の凸面レンズであつて、丁度平凸レンズ「ロ」を二枚合せたと同じ樣なものである。光線を屈折するにはレンズの中心と邊緣とによつて差のあるもので、之を所謂レンズの球形收差或は球形迷行と名け、レンズの度が強ければ強い程これが著しい。又

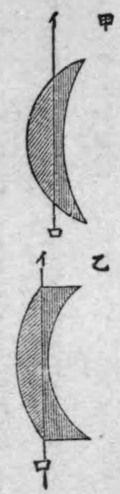
第二圖



視線がレンズの中點を通る時には異常がないが、少し斜に通過すると屈折に異常を來すから、眼鏡を裝用したものが射擊や球突きをやると見當が違ふ。此球形收差及少しく斜に見た時にも屈折の違ひ無い樣に作つたレンズが卽ちメニスクスである。メニスクスは「周邊もよく見えるレンズ」と稱せられて、西洋では古くから用ひられて居る。我國へは近年米國製の可なり良いメニスクスが輸入せられ、また我國の眼鏡師も米國製に劣らぬ巧妙なメニスクスを製造する樣になつた。其の構造は簡單なもので、一種の凹凸レンズである。凸が勝つて居れば凸メニスクス、凹が勝つて居れば凹メニスクスで、第三圖に示した甲乙の半月形のものは各メニスクスの斷面である。今「イロ」の線によつて前後の二部

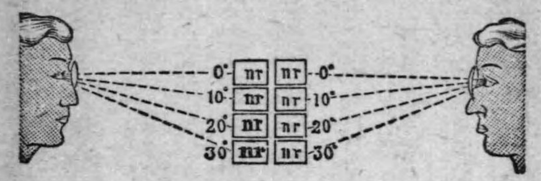
に分けると前半部(斜線を施した部分)は平凸レンズで後半部(縱線を施した部)は平凹レンズである。例へば「甲」の如く平凸の度が平凹に勝つて居る時には凸メニスクスで、「乙」のやうに平凹が勝つて居る時には凹メニスクスである。今假に甲の平凸部が凸二・二五Dで平凹の部が凹一・

第三圖



二五Dであればこのレンズは凸メニスクス一・〇Dである。又「乙」の平凸の部が凸一・二五Dで平凹の部が凹二・二五であれば此レンズは凹メニスクス一・〇Dである。メニスクスは大概一方の彎曲の度が定まつて居るもので、凸メニスクスでは後半部の平凹の部が凹一・二五Dのものと凹六・〇Dのものとあつて、前半部の平凸が凸一・二五或は凸六・〇Dより強くなつて居る。また凹メニスクスでは前半部半部の平凸の部が凸一・二五D或は凸六・〇Dで後半部の平凹が前半の平凸より度が強くなつてゐる。此等の一・二五Dの固定彎曲面を有するものを我國の眼鏡屋は淺刳山または「とりつく」といひ六・〇Dのものを深刳山または「めにすこ」と稱へて居る。後者の方が高價で、效用も優つて居る。普通兩凸レンズは五六十錢であるが淺刳山は一圓乃至一圓五十錢、深刳山は二圓五十錢乃至三圓五十錢位の價である。價だけにメニスクス(深刳山)は普通の兩凸或は兩凹レンズに比して餘程具合がよく、球を突いても見當が可なりに付くが、然しまだ完全の域に達しては居ない。ところで西曆千九百八年則ち明治四十一年に獨逸のハイデンベルヒの眼科學會で、フォンロール氏が瑞典のクルストラント教授のブンクタールグラスと名けたレンズを發表し、次で獨逸のイエーナ市ツアイス工場から發賣したレンズは第四圖に示したやうで、

第四圖



プンクタールグラス　從來の兩凸レンズ

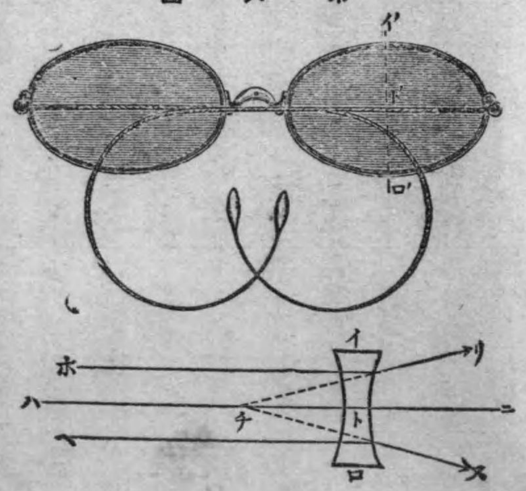
普通の兩凸レンズでは視線がレンズの中點を通過したる時は明瞭に見ることが出來るが、十度二十度と傾くに從つて漸次に不明瞭となり、終に三十度に及んで全く明視し難いにも拘はらず、プンクタールグラスでは猶明瞭に見ゆることを示したので、この圖では下の方丈しか書いてないが各方にも皆同じ關係である。此レンズが眼鏡としては最も良いので、價は普通のレンズが五六十錢であるのに之は六圓である。

二、凹面レンズ

これは近視眼に用ふるもので、第五圖「イ」の如き兩凹レンズ、「ロ」の如き平面レンズと凹メニスクス「ハ」とある。恰も凸面レンズと反對であつて第六圖「イロ」は凹面レンズ「イ′ロ′」の斷面を示し「ホイ」及「ヘロ」の並行光線は「ロヌ」及「イリ」の方面に分散する「リイ」及び「ヌロ」を延長すると「チ」の點に結合する。恰も「イリ」及「ロヌ」の光線は「チ」の點から放射せられたかの樣に見える。此「チ」の點を陰性燒

第五圖

第六圖



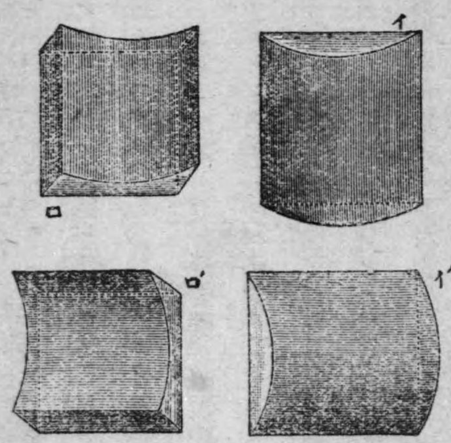
點と稱へ、「トチ」の長さを陰性燒點距離と名ける。凸面レンズの場合では、並行光線が實際に結合する點を燒點と稱へるけれど、凹面レンズの場合は並行光線は分散して結合することなく「チ」の點から放射せられたやうに見えるから陰性の燒點と名けるので實際に此の點から光線が來たのではない。凹面レンズも凸面レンズと同じくツアイス工場からブンクタールグラスを發賣して居る。矢張レンズの中心を距る事三十度までは明瞭な像を結ぶことは前に述べた凸面レンズの場合と同樣である。

凹面レンズの度もレンズと同じく燒點距離で決定するので、陰性燒點距離一メートルのものは新式一・〇で舊式四十番、二メートルは新式〇・五、舊式八十番であるから、同じ度數の凹面レンズと凸面レンズを重ね合すと平面レンズになる。凹面レンズは一の記號を用ひ、凹一・〇を －1.0 と記すのである。

三、圓柱レンズ

圓柱レンズは凸面と凹面との二種類がある。凸圓柱レンズは遠視性亂視に、凹圓柱レンズは近視性亂視に裝用する。第七圖に示した「イ」は凸圓柱眼鏡軸縱、「イ′」は同軸横である。「ロ」は凹圓柱眼鏡軸縱、「ロ′」は同軸横である。つまり凸圓柱レンズは軸の方向へは平面で、軸と直角の方向は凸面レンズで、凹圓柱レンズは軸の方向は平面で軸と直角の方向が凹面レンズである。度數は普通の凸面或は凹

第七圖

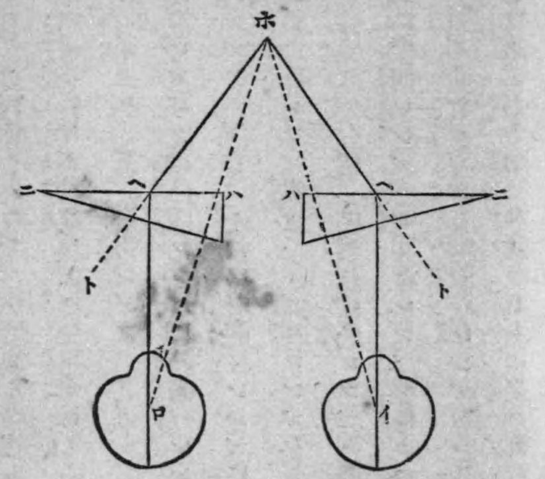


面レンズと同樣であるが、唯一方だけ卽ち軸の方向丈へは平面であるの差がある。圓柱レンズには兩凸或は兩凹のものはなく、一方は平面になつて居るのが普通で、凸圓柱メニスクス、凹圓柱メニスクスもプンクタールグラスもある。凸及凹圓柱レンズは普通が一圓二十錢、メニスクスは七乃至九圓、プンクタールグラスは十二圓位で普通レンズの二倍以上の價である。而して凸圓柱一・〇度と記すのを +Cyl.10. 凹圓柱一・〇度を −Cyl.10. と記すが、これと同時に必ず軸の方向を記すべきである。

四、三稜鏡又はプリスマ眼鏡

之は平面眼鏡の一種であるが、唯面と面とが並行して居ないのである。普通の平面レンズは一方の面と他方の面とが卽ち言ひかふれば裏表の面が並行であるが三稜鏡では此二面の間に角度がある。第八圖に示した「イ」「ロ」は眼球で「ニハ」は眼前の三稜鏡である。「ハ」を三稜鏡の基底といひ「ニ」を尖頂といふ。此尖頂の角度を以て三稜鏡の度とする。卽ち直角の九十分の一が一度、其二倍が二度、十倍が十度である。今「ホ」の點に光點があつて、此點から發した光線が三稜鏡を通過すると、「ヘト」の方向へ向はずして「ヘイ」或は「ヘロ」の方向に屈折して眼球が「イホ」或は「ロホ」の方向に向はずして「ホ」の點から發する光線を

第八圖



眼の中に射入せしめることが出來るのであるから、視軸を輻輳する作用の弱い病氣卽ち內直筋作用不全症などに裝用するものである。

五、合併レンズ

合併レンズとは凸面レンズに凸圓柱レンズを合併したり、或は凹面レンズに凹圓柱レンズを合併し、または凸圓柱レンズに凹圓柱レンズを交叉せしめたり、或は三稜鏡に凸凹レンズ或は凸凹圓柱レンズを合併せしめたりしたもので、つまり遠視に遠視性亂視が合併して居れば凸レンズと凸圓柱レンズ、近視に近視性亂視が合併して居れば凹レンズと凹圓柱レンズを合せ、一軸が遠視性亂視で一軸が近視性亂視であると凸圓柱レンズと凹圓柱レンズを交叉せしむるのである。以前は二枚を貼附せしめたのであるが、近來は兩面に度を附けて、一面は凸、他面は凹圓柱といふ風に一枚のレンズで造れるやうになつた。合併レンズは凸面系統のものには凸を合せ、凹面系統のものには凹を合せるもので、へ例ば凸面レンズ一・〇度に凹圓柱レンズ〇・五度を合せないで凸〇・五に凸圓柱〇・五を合せる。何故かといふに、凸一・〇に凹圓柱〇・五を合せると、此レンズは凹圓柱の軸の方向は凸一・〇で軸と直角の方向は凸〇・五であるから、凸〇・五に凸圓柱〇・五を合せると凸圓柱の軸の方向は凸〇・五で軸と直角の方向が凸一・〇になるからである。稀に凸圓柱と凹圓柱と軸が直角に交叉して向併することがある。例へば凸圓柱一・〇軸横に凹圓柱一・〇軸縱が合併すると、此場合には凸圓柱二・〇軸横に凹一・〇を合せると所用のレンズが出來上る。其理由は凹一・〇は凹圓柱一・〇軸横と凹圓柱一・〇軸縱と合併したものと同一であるから、此上へ更に凸圓柱二・〇軸横を合併すると横軸の凸凹兩圓柱レンズは入れ

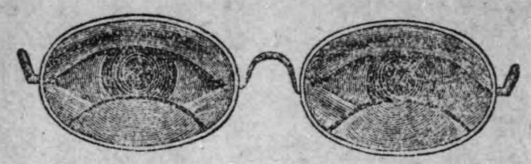
合せて凸圓柱一・〇となる。之に軸縱の凹圓柱一・〇があるから所用のレンズが出來上つたことになる。

複雜亂視の眼鏡が、毎常かくの如く都合よく手輕に出來るとは限らないけれども、此邊の程合を醫師なり眼鏡屋なりが充分に心得て居ないと、病人なり顧客なりに餘計な散財をさせることになるから、愼み鑑みねばならぬことゝ思ふ。

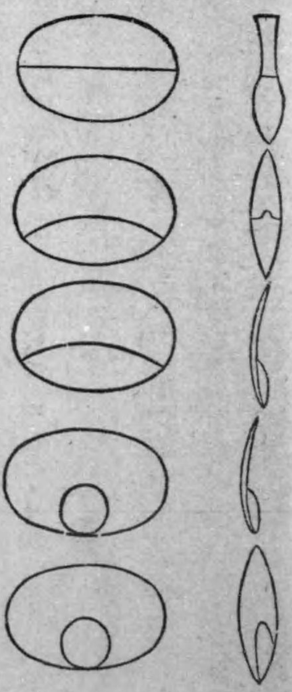
六、フランクリン氏眼鏡

例へば玆に六十歳の近視一・〇度の人があるとする。此人は遠方を見るために凹一・〇度の眼鏡を裝用せねばならぬ。前に本文の中の屈折篇の老視の項で、六十歳にして正視眼の人は三十三センチメートルの距離で讀書するに凸三・〇度を要する事を說いたと同じ理由で、此老人は讀書の爲に凸二・〇の裝用を要するから遠見には

第九圖



フランクリン氏眼鏡



凹一・〇讀書に凸二・〇と二樣の眼鏡を要する。此二個の眼鏡を一個に製したのが卽ち所謂フランクリン氏眼鏡で、第九圖の「イ」のやうに、レンズを二分し上半部と下半部と異りなる度のレンズを以て調製し、上半部は遠見用、下半部は近業用

となしたものである。或はまた「ロ」の如く半月形に或は「ハ」の如く球形になしたものなどがある。また「ニ」のやうにレンズ中に箝入せしめた所謂子持レンズなるものもあるが、使用の目的は何れも同一である。

次に米國眼鏡會社の眼鏡玉の大さは左表のやうである。

	Eye Size	Bevel Edge	Rimless Edge
	2	26. × 35. mm	27. × 36. mm
一日本醫學會で用ゐる	1	27.5 × 36.5 mm	28. × 37. mm
	0	28.8 × 37.8 mm	29.5 × 38.5 mm
	00	30.7 × 39.7 mm	31. × 40. mm
	000	32. × 41. mm	32. × 41. mm
	0000	35.5 × 44.5 mm	35.5 × 44.5 mm
	Jumbo	37.4 × 45.4 mm	37.4 × 45.4 mm
	X	38. mm Round	
	XX	36.3 mm Round	
	XXX	32. mm Round	

眼鏡の枠

眼鏡の枠はレンズを眼前に保持するために用ふるもので、大別すると鼻掛眼鏡と耳掛眼鏡とになる。前者は鼻梁を挾みて固定し、後者は耳翼に蔓を掛けて固定するのであるが、其他「長手」と稱して眞直な棹で頭部を耳の後上方で壓して固定するも

のと、「押へ形」と稱して短いので顴顬部を壓して固定するものもある。又「柄付眼鏡と稱して西洋剃刀かナイフの樣に鞘から引き出して用ふるものと、モノグラスといふて一個のレンズに穴を穿つて之に紐が通してあつて、之を小供が戯に眼緊張を掛けた樣にして裝用する所の最もハイカラで、尤も不實用的な、キザ一點張のものもある。其他「重裝用眼鏡」とでも云ふ普通の眼鏡の上に更に掛けられる樣に造つた蔓の代りに小さな鈎の附いたものもある。鼻掛眼鏡は歐米人の如き鼻梁の高い人に適應するもので、我々日本人には例外の人よりは用ふることが出來ないのであるから、

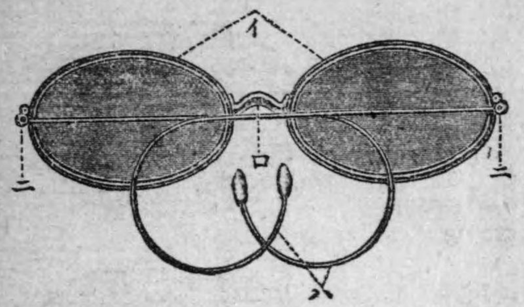
第十圖

鼻掛眼鏡

我國では專ら耳掛眼鏡が用ひらる。それ故他のものは省いて茲には耳掛眼鏡のことを說明しやうと思ふ。

眼鏡の枠は金、銀、赤銅、鋼鐵、ニッケル、洋銀等の金屬製のものと、鼈甲、水牛等の非金屬製のものとがある。金屬は强靭で破損し難いから普通眼鏡の枠は金屬で造る。金屬の內では金が最もよい。金緣眼鏡であるからよいと云ふのではない。金は腐蝕せられたり錆ることがないからよい。夏に汗が付たり、或は船に乘つて潮風に逢ふと、鐵や赤銅製などは直に役に立たなくなるが、金製は何ともなく、たとひ金鍍金でも此點は赤銅などより遙によいが、金屬は溫熱を良く傳導するから樺太滿洲或は西伯利亞などの寒國で冬の朝に金屬製の眼鏡を裝用すると之に觸れて居る部分に凍傷を起すから此の場合は非金屬製の枠を用ひねばならぬ。眼鏡の枠を部分的に

第十一圖

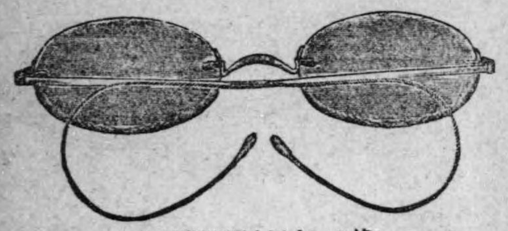


區別すると緣（第十一圖「イ」）橋或は鼻當り（「ロ」）蔓或は手（「ハ」）及び蝶番（「ニ」）の四部分になる。緣はレンズを周邊から包んで居るのでレンズの形及大さに適應する。第十二圖に示したるのはレンズの實物大を示したもので、まだ此の他に「參零番」Jmuboなどと、もつと大きいもの或は圓形のものもあるが普通零番形（或る人は之れを零番ではない、Oval EyeのOであると云ふ）を用ふる。婦人小兒など顏の小さい人には「普通形」を用ふるが、あまり小さいのはよくない。レンズに穴を穿ち直接に橋及蝶番を附着した緣なし眼鏡は、破損し易くて實用的でない。緣には平打（平溝と云ふ）と穹窿打（丸溝と云ふ）とあるが、どちらでもよい、

第十二圖

蝶番は蔓と緣と直角にまで開くことの出來るのと「自由形」或は「自在形」と稱して反對側まで廻すことの出來るものとがある。もう少し詳しく云ふと蔓を廻して右が左に左が右になるので眼鏡の反對側からでも見ることが出來る樣になつて居るので

第十三圖



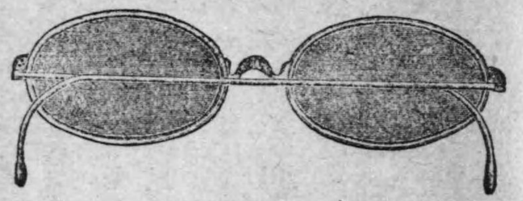
緣ナシ中甲入彈條繩蔓掛

るが、特別の目的がない限りは必要がないばかりでなく、我同胞は鼻梁が低いから目が飛び出て居ると同じ關係になつてレンズが顔や睫毛に觸れて汚損し易いから却つて良くない。橋(或は鼻當り)は「一本山形」と稱するのが尤もよく、鼈甲を張つたりなどしたのがあるが鼈甲があるから殊更に柔かく當るなどの効はない、寧ろ破損し易く金屬ばかりの方がよい。

第十三圖に示したのは緣なし中甲入彈條繩蔓掛眼鏡である、此外蔓には細蔓掛、元繩蔓掛、長手、半掛などがあるが尤も注意を要する事は眼鏡が顔に能く合することであ

第十四圖

中甲入長手



中甲入半掛

るから、例へば顔の廣い人が狹い小さな眼鏡を掛けたりしてはいけない。顔の形、鼻の高さに應じて能く適應する樣に造ることが必要である。何れの點が必要かと云へば橋(或は鼻當りと云ふ)である。我々日本人の鼻は千差萬別高いもあれば低いもある廣いのも狹いのも色々であるから單に一本山形蔓掛などゝ云ふて注文して取り寄せても扱裝用してをると顔には適せないのが普通であるから必ず眼鏡屋へ行て自身の顔に適

合せしむるか或はグッタベルカの如きもので顔の形を取て之を眼鏡屋へ送る必要がある。

諸君は以上で大凡眼鏡に關する知識を得られ、眼鏡を選定する普通近視或は老視の人が直接眼鏡屋へ行きて眼鏡を合せて買つて來るなどゝ云ふ事が甚だ無法な事で必ず眼科專門醫の指圖を受けねばならぬことを理解せられた事と信ずる。猶當前田眼科院にて印刷した眼鏡裝用上の注意を參考の爲めに掲げると次の如くである。

眼鏡裝用上の注意

始めて眼鏡を裝用る人は一寸した不注意から明瞭に視ゆべき眼鏡が却つて視惡いことがあるから左記の事項に氣を付けられんことを望む。

一、眼玉鏡は柔革又は能く洗つた木綿のハンカチーフなどを以て毎日少くとも一回は能く拭つて埃塵や曇斑の無い樣にせねばならぬ。

二、眼鏡玉には決して指又は顔面の皮膚を接觸せしめてはいけない。之を接觸むれば脂肪の爲めに斑點が附いて視惡くいものである。

三、眼鏡玉を著しく汚染した時は石鹼を塗り乾きたる布片にて清拭するがよろしい。

四、眼鏡を机の上とか其他の所に置く時は眼鏡玉の面が竪になる樣にして平面になる樣にしてはいけない。之はさうしないと塵埃が付たり傷が付くからだ。

五、調節機痙攣(假性近視)や近視の人が眞性の度數よりも强いのを懸けても猶よく遠方が見えるのと反對に潛伏遠視又は遠視性亂視の人が普通の凸或は凸圓

柱眼鏡を裝用いた時は遠方を見る場合に眼鏡を用ゐない時の視力に比べて同樣であるか又は視力が增加して視よい筈であるにも拘らず、却つて視力が減弱つて視惡い樣の感じがするものであるのみならず、平坦の街路が坂の樣に視へたり或は電柱等が傾斜て居る樣に感じても（メニスクスさえ用ゆれば斯如事はないが）決して眼鏡をはづしたり又は眼鏡越に視てはいけない。又眼鏡は洗面、入浴睡眠時の外は始終裝用て居て脫さない方がよろしい。少し慣るれば視惡い樣の感じは必ず消えて視よくなるものである。

六、眼鏡は眼と顏とに適合する樣に調製るもので其注意すべき事項は概略左の通りである。

（イ）眼鏡玉の度は眼に適合せねばならぬ。

（ロ）眼鏡玉の中心間の距離と眼と瞳孔間の距離と一致せねばならぬ。

（ハ）眼鏡玉は睫毛の接觸ない程度に於て成るべく眼に接近して裝用るものである。

（ニ）鏡眼玉の下緣は上緣より少しく（約十度）傾斜して顏面に接近する樣にする事。

（ホ）眼鏡は左右同じ高さで又一方接近し他方が隔離するが如き事があつてはいかぬ。卽ち眼の高さで遠方を望んだ時は視線は眼鏡玉の眞中を通る樣にする事。

（ヘ）眼鏡の枠は鼻根、耳翼、顳顬部等を甚だしく壓して疼痛を感ずる樣にしない事。

眼と神經衰弱 終

大正四年十二月十五日印刷
大正四年十二月二十日發行
大正十年六月[illegible]日增補五版

定價 壹圓參拾錢

東京市神田區駿河臺淺町
著者 醫學博士 前田珍男子

東京市京橋區南鍋町二丁目十五番地
發行者 增田義一

東京市芝區愛宕町三丁目二番地
印刷者 笠間音次

東京市京橋區南鍋町二丁目十五番地
發行所 實業之日本社
電話銀座 二三〇二、二三〇三、二三〇四、九九八
振替貯金口座東京三三六

東洋印刷株式會社印行

不許複製

眼と神經衰弱

□改訂增補 岡田式靜坐法 三百十版 實業之日本社編 定價七十錢 郵稅四錢

□體力精力增進法 廿四版 樫田醫學士著 定價六十錢 郵稅四錢

□腎臟炎と糖尿病 六版 菊池醫學士著 定價九十錢 郵稅四錢

□胃腸の衞生 十三版 野田醫學士著 定價六十錢 郵稅四錢

□腦の衞生 十八版 樫田醫學士著 定價七十錢 郵稅四錢

□心臟の衞生 再版 竹中ドクトル 伊藤尙賢氏共著 定價七十錢 郵稅四錢

□自彊術の解說と實驗談 八版 十文字大元氏編 定價九十錢 郵稅四錢

□耳鼻の衞生 再版 杉村醫學士著 定價壹圓 郵稅四錢

□訂正增補 衞生十二月 廿三版 樫田醫學士著 定價六十五錢 郵稅四錢

□弦齋式斷食療法 再版 村井弦齋氏著 定價壹圓七十錢 郵稅八錢

□難病の治療法 再版 村井弦齋氏著 定價貳圓廿錢 郵稅八錢

□藥になる食物と病人の食物 六版 伊藤尙賢氏著 定價壹圓廿錢 郵稅六錢

□性慾研究と精神分析學　十六版　榊醫學博士著　定價貳圓　郵稅十二錢

□變り者　再版　榊醫學博士著　定價壹圓八錢　郵稅十二錢

□一般性慾學　十五版　羽太醫學博士著　定價貳圓八十錢　郵稅十二錢

□性慾と近代思潮　六版　羽太醫學博士著　定價二圓六錢

□婦人性の研究　四版　羽太醫學博士著　定價二圓八錢

□性の衞生　再版　羽太醫學博士著　定價壹圓七十錢　郵稅八錢

55
99/1

終